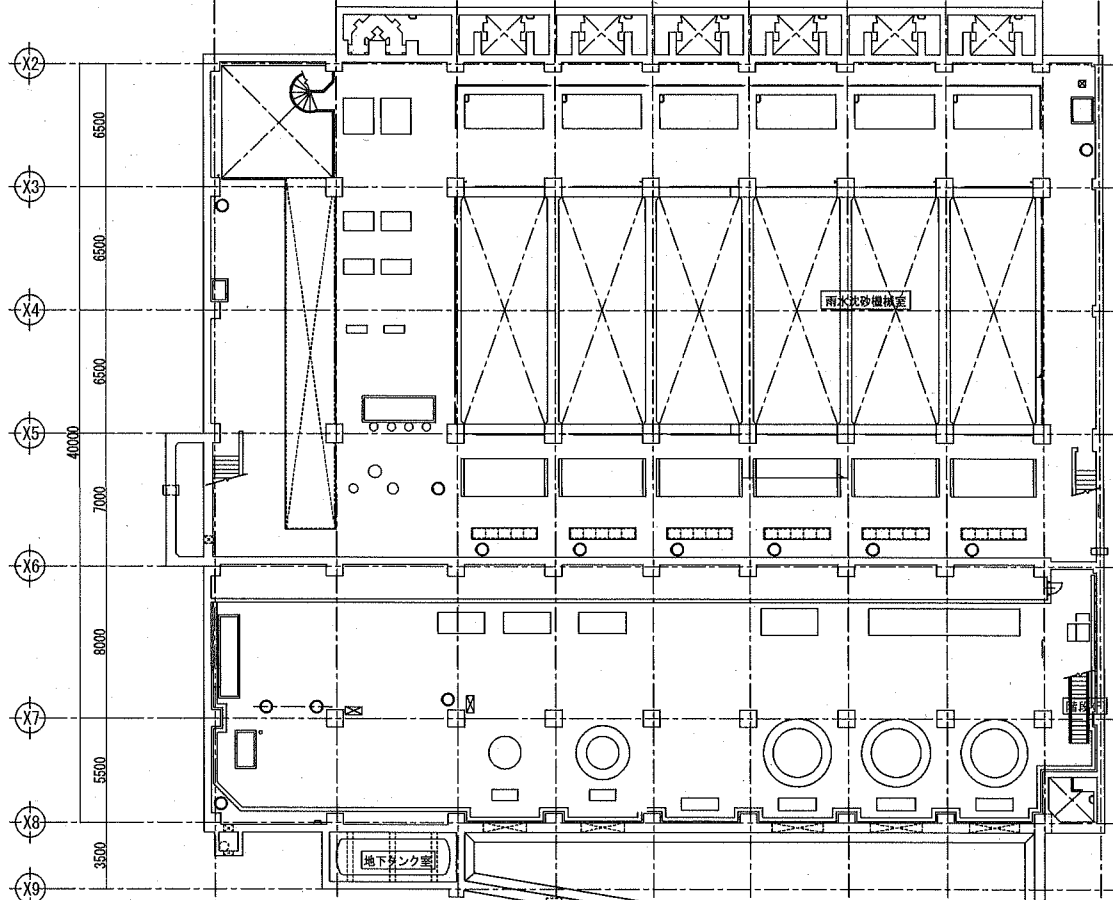


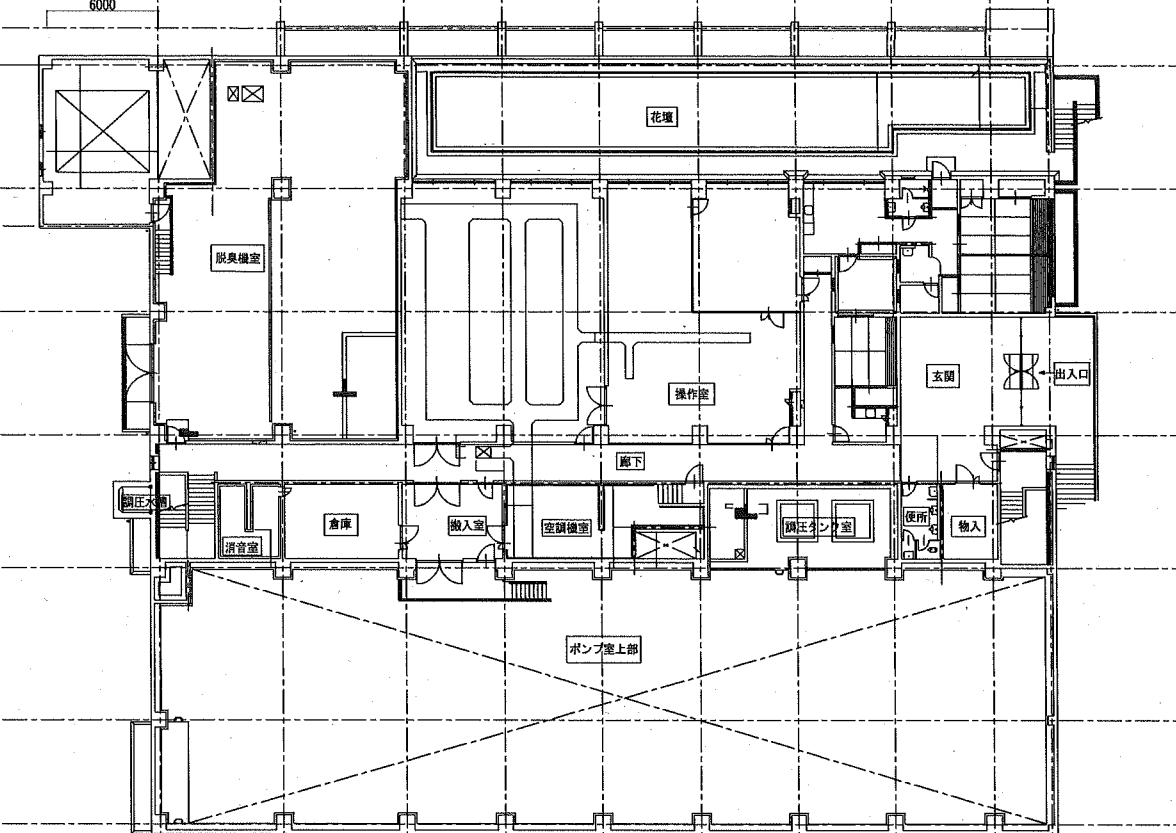
案内図

耐震改修対象建物を示す

横須賀市上下水道局				
工名	事	舟倉第2ポンプ場		
図名	面	耐震補強建築工事		
縮尺	1:200	図番	A-1	
製年	作月	令和2年6月		
課長	係長	担当者	設計者	

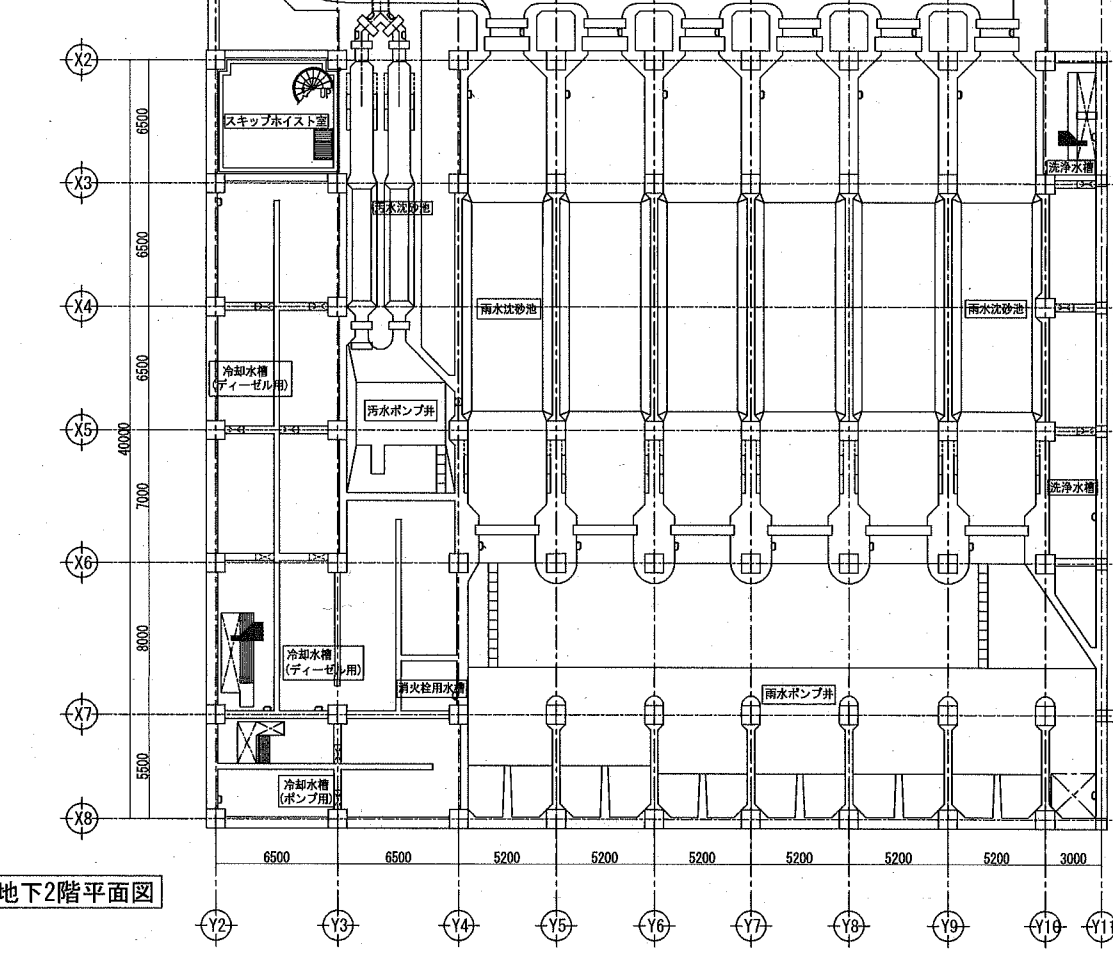


1階上部平面図

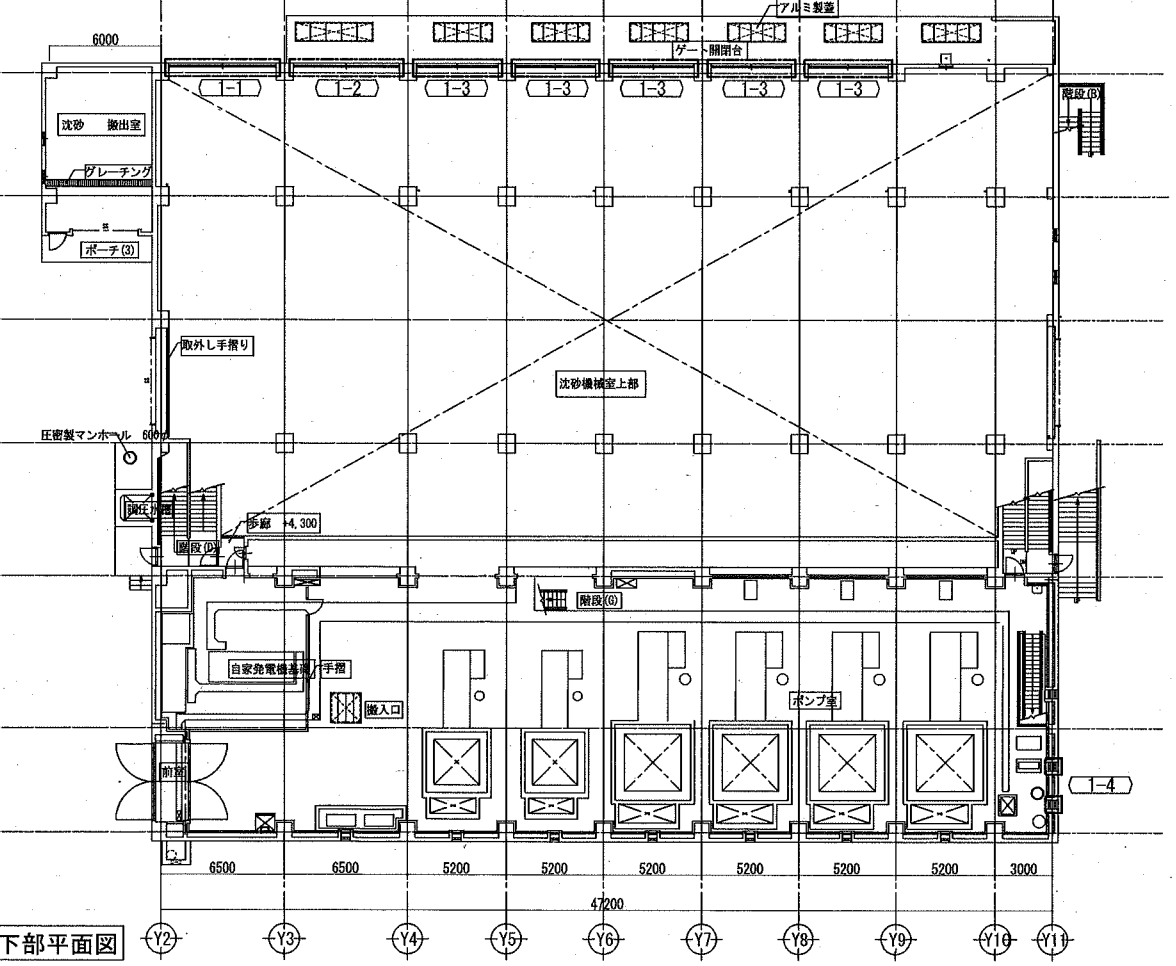


1階下部平面図

地下1階平面図



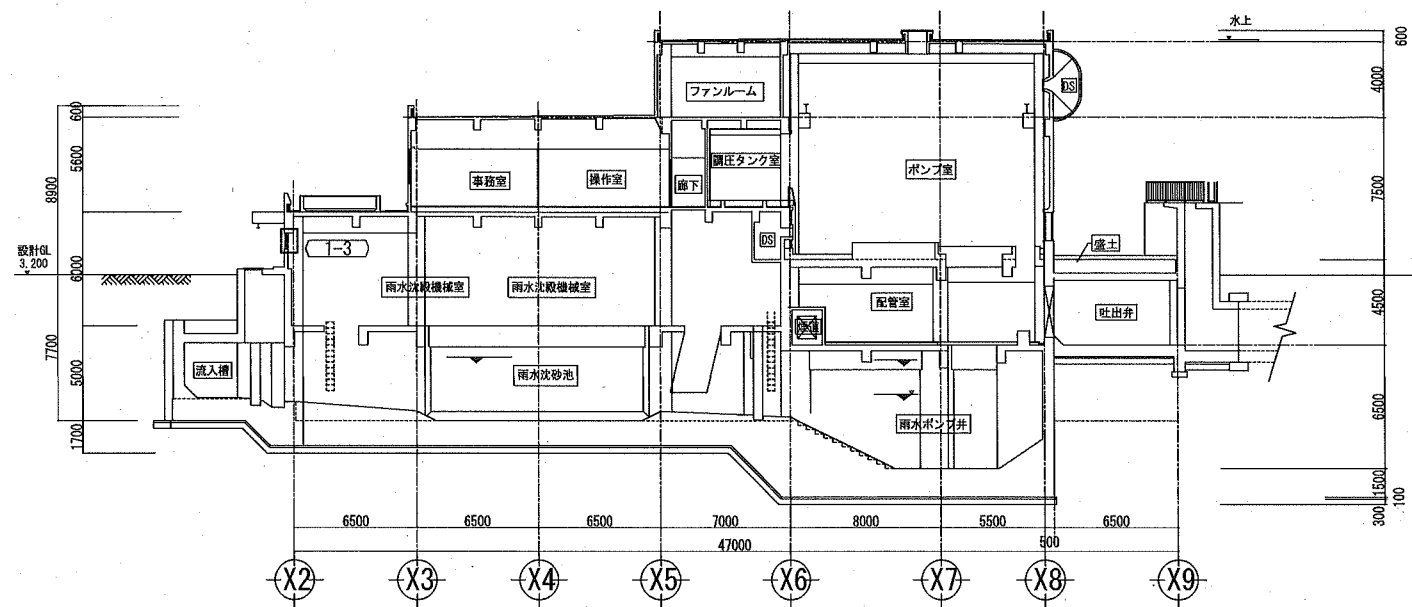
地下2階平面図



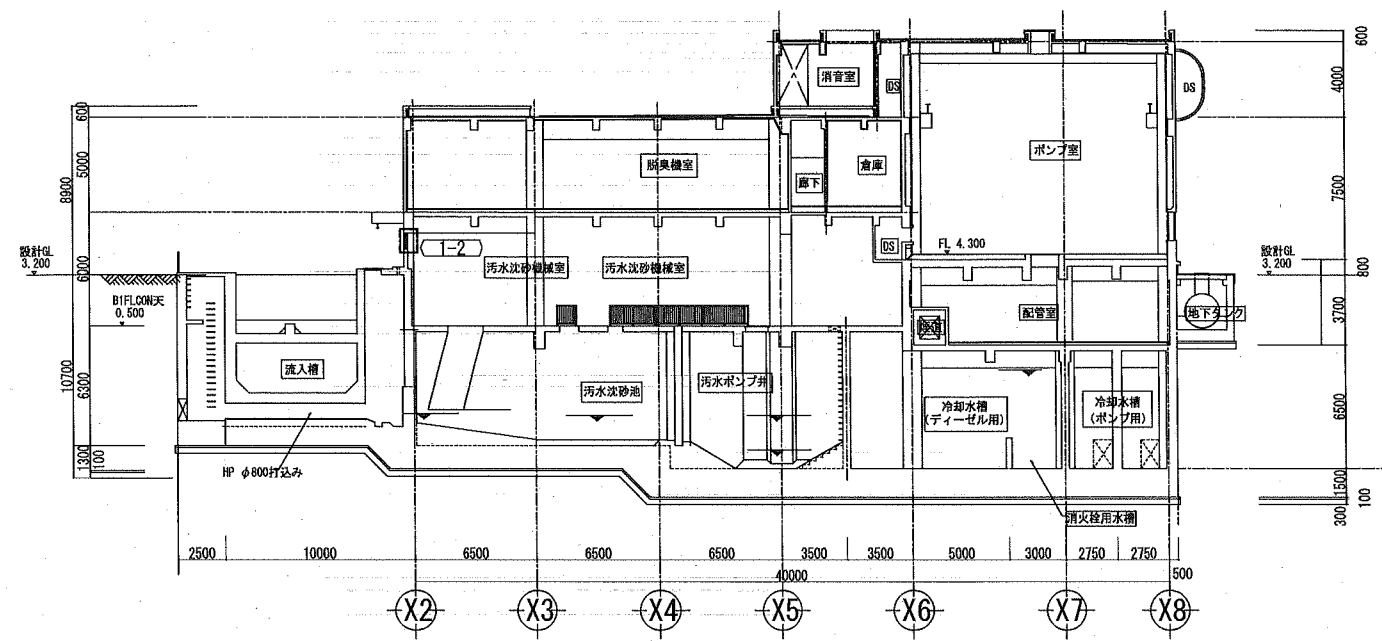
凡例

- 本工事改修範囲
- 階数-(N-N)- 部位番号

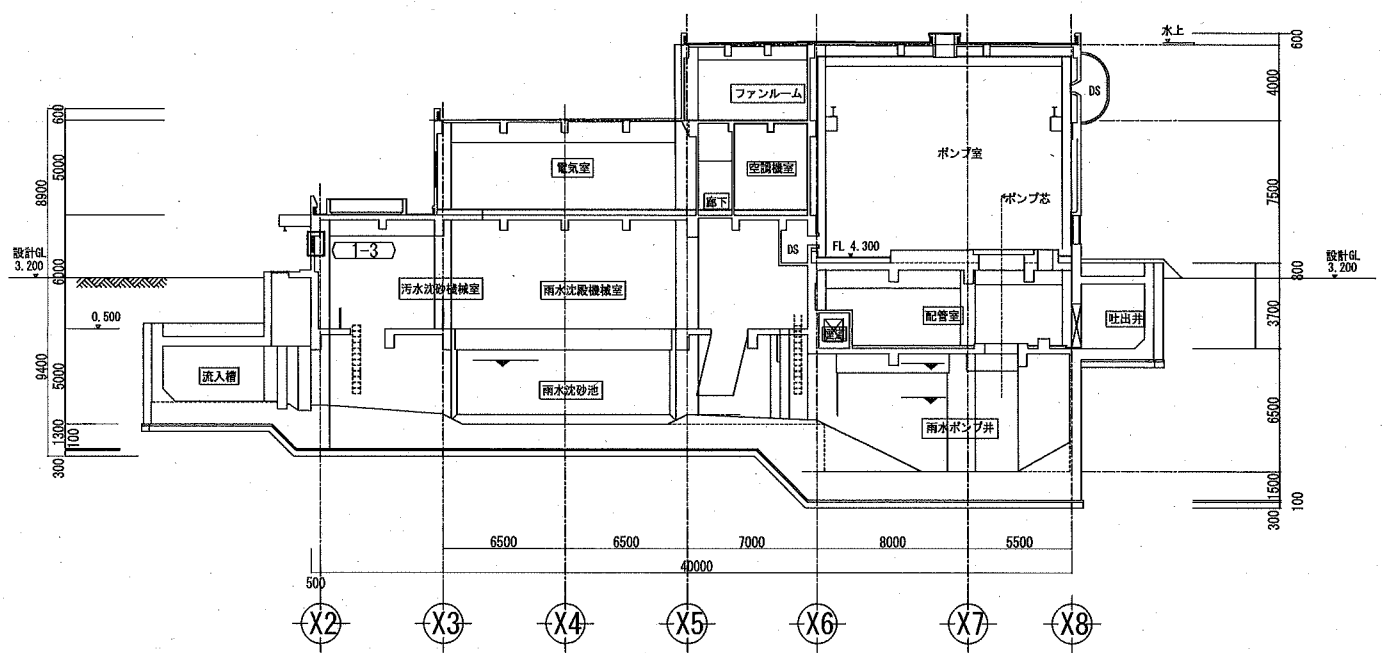
横須賀市上下水道局			
工名	事称	舟倉第2ポンプ場	
図名	面称	耐震補強建築工事	
縮尺	1:200	図番	A-2
製年	作月	令和2年6月	
課長	係長	担当者	設計者



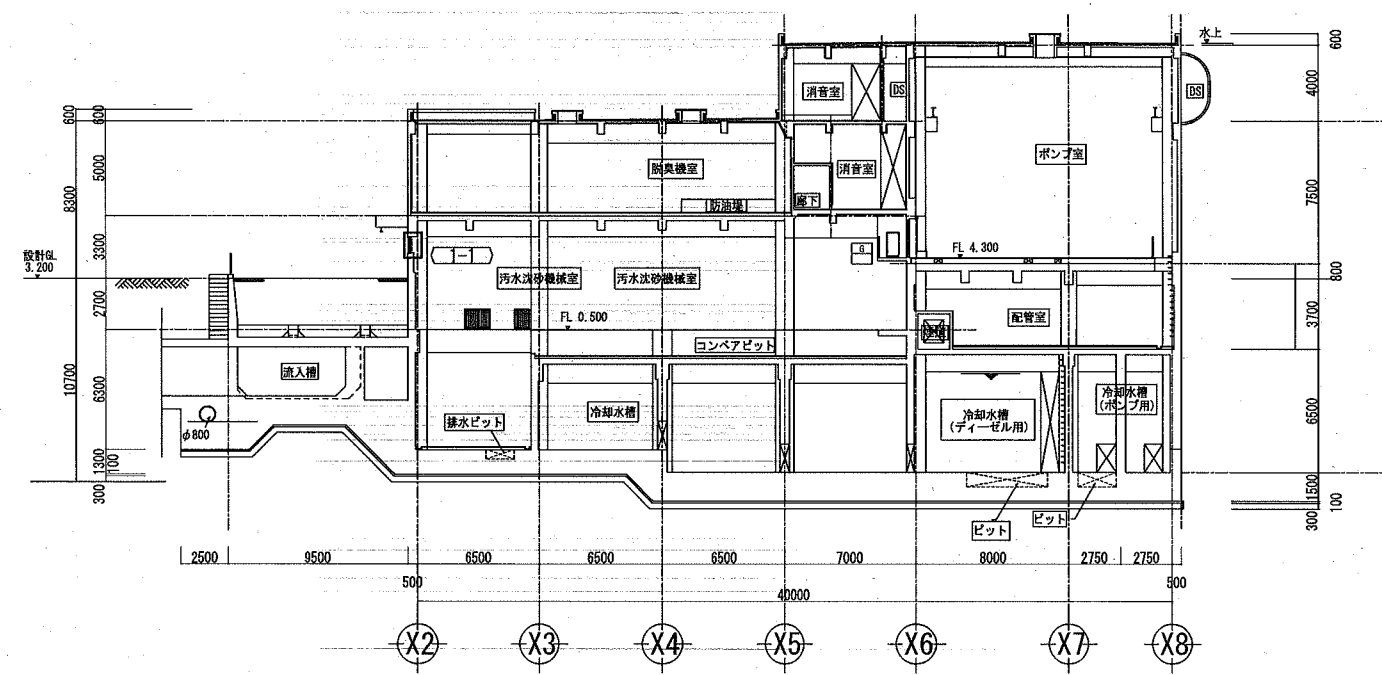
A-A断面図



C-C断面図



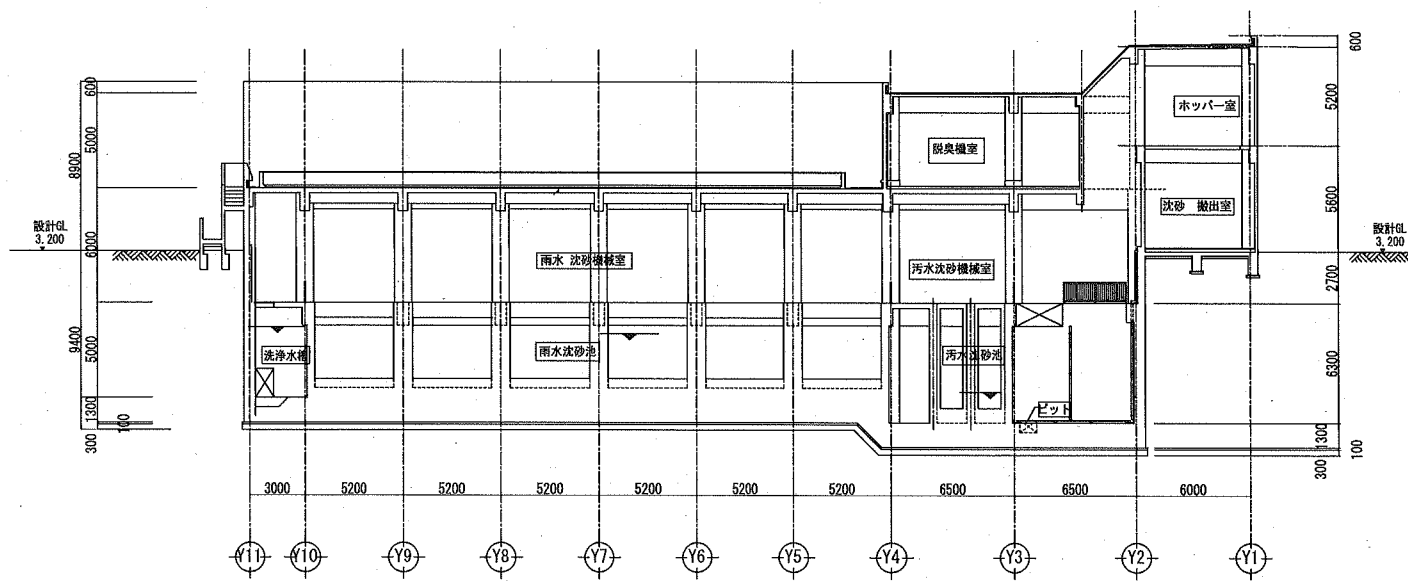
B-B断面図



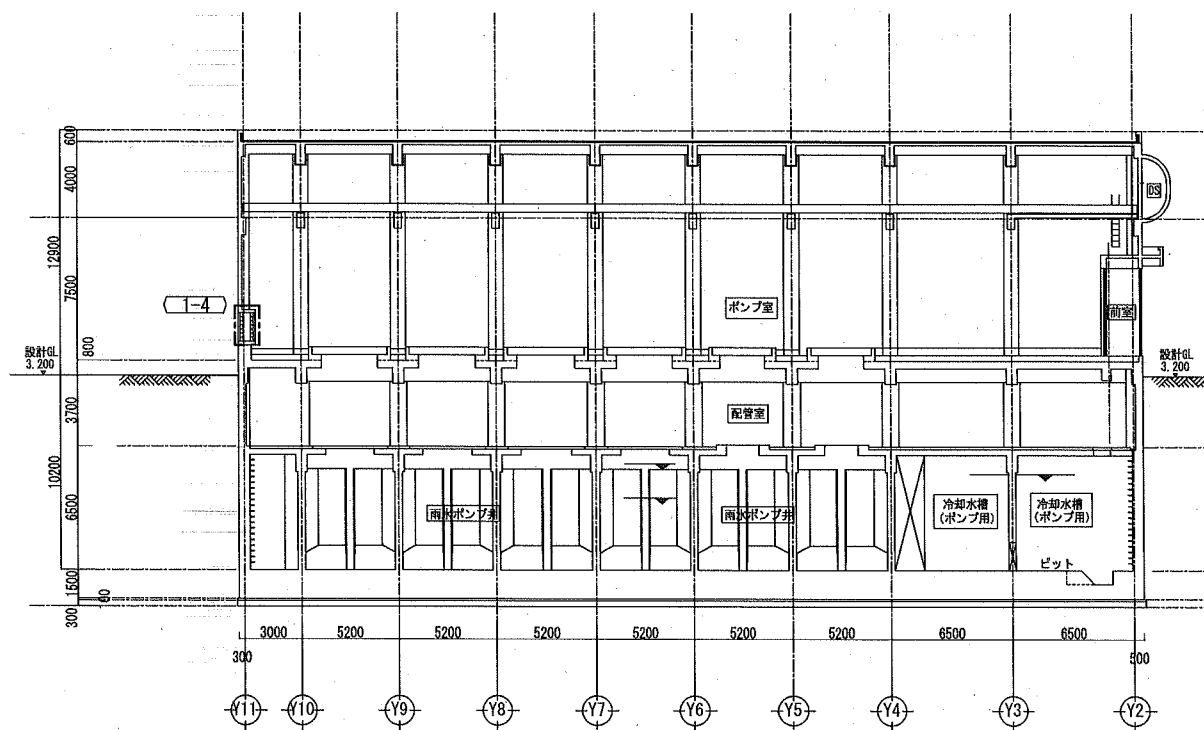
D-D断面図

凡例  
 〇 本工事範囲  
 階数(N-N) 部位番号

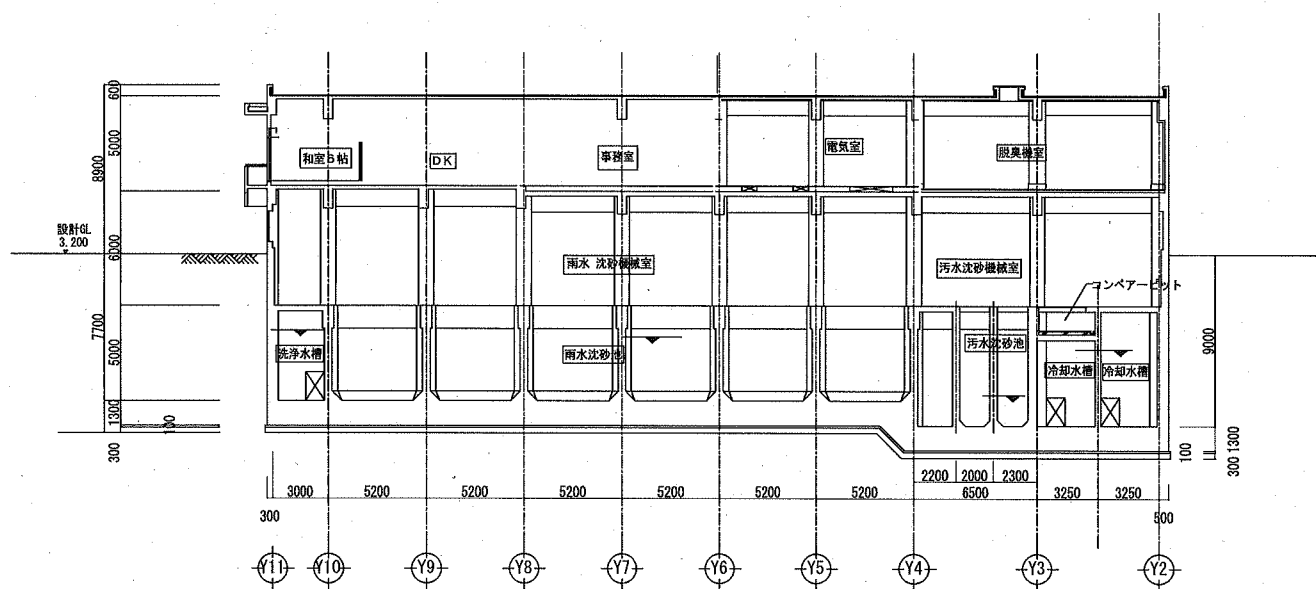
横須賀市上下水道局			
工名	事	舟倉第2ポンプ場耐震補強建築工事	
図名	面	断面図(1)	
縮尺	1:200	図番	A-3
製年	令和2年6月		
課長	係長	担当者	設計者



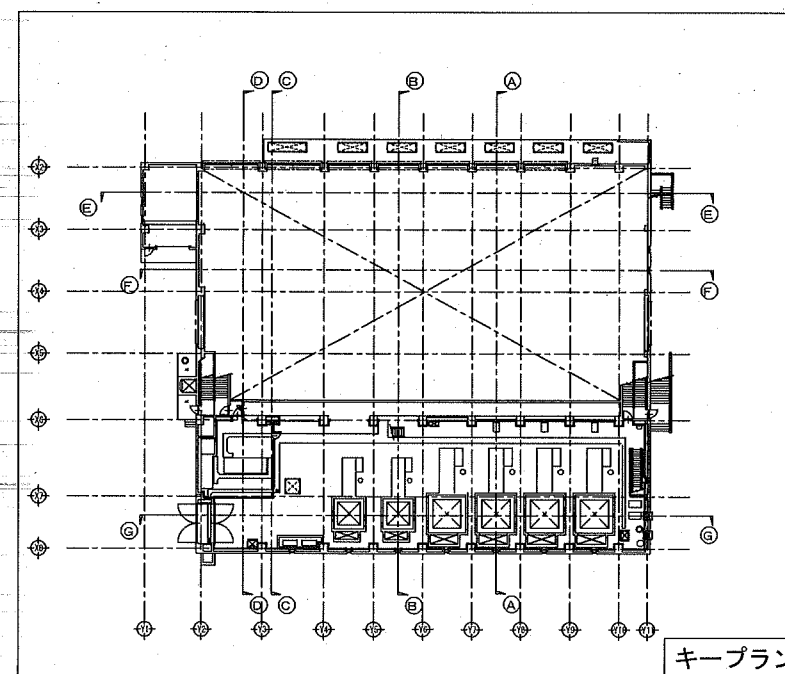
E-E断面図



G-G断面図



F-F断面図

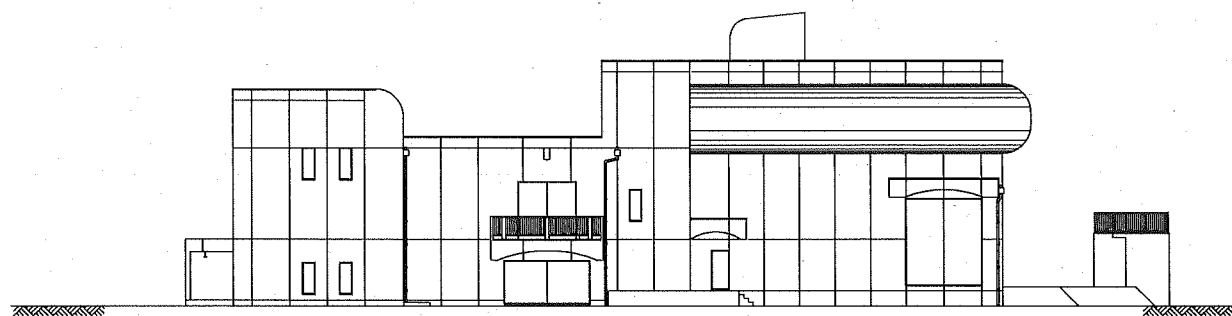


キープラン

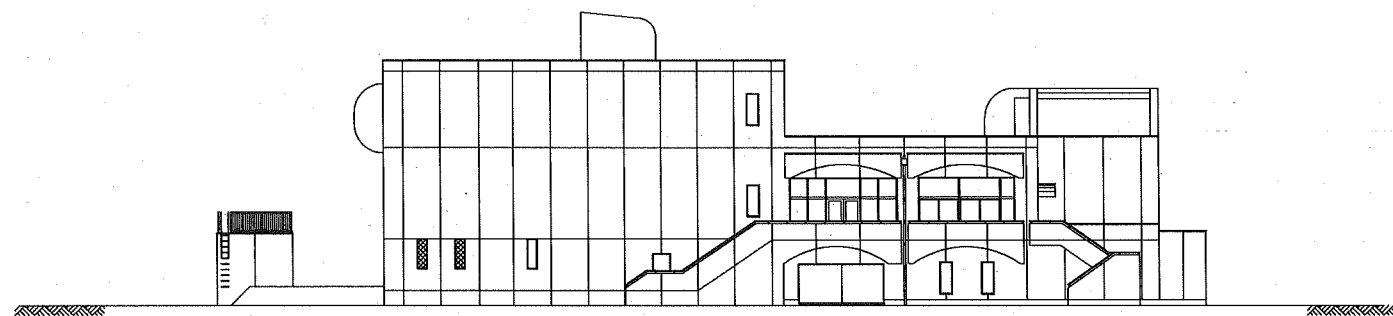
凡例  
 〇 本工事範囲  
 階数(=N) 部位番号

横須賀市上下水道局

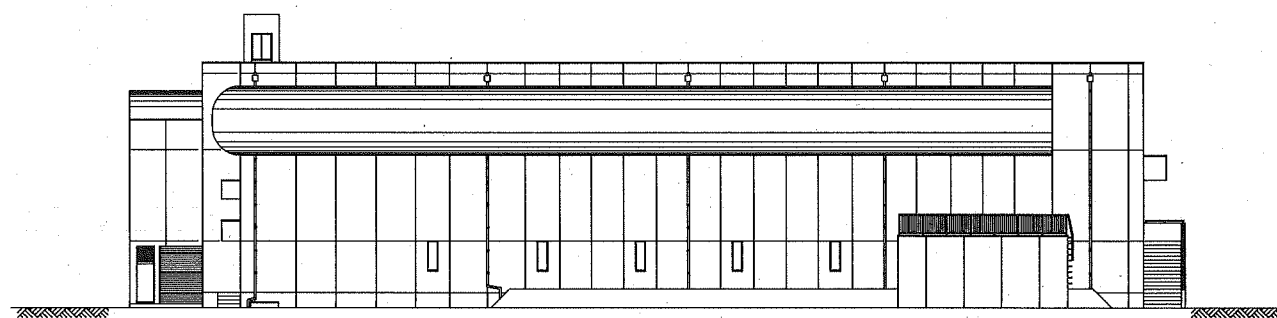
工名	舟倉第2ポンプ場		
事称	耐震補強建築工事		
図名	断面図(2)		
縮尺	1:200	図番	A-4
製年	令和2年6月		
課長	係長	担当者	設計者



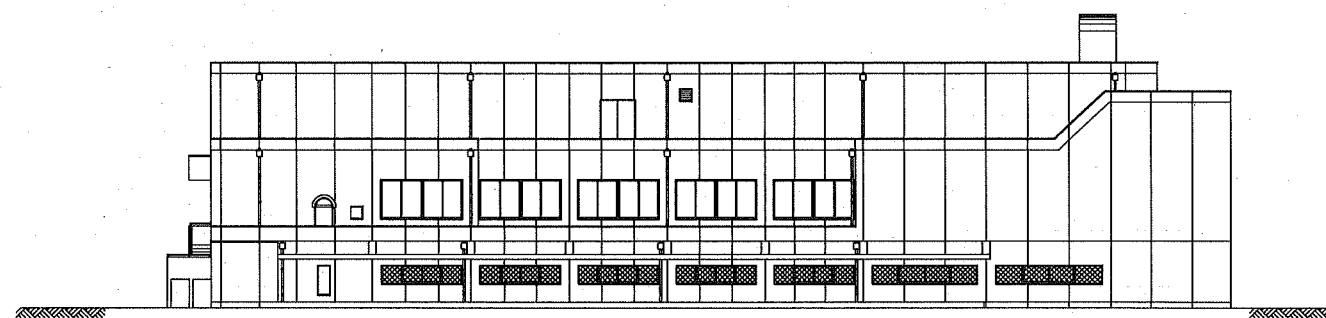
西側立面図



東側立面図



南側立面図



北側立面図

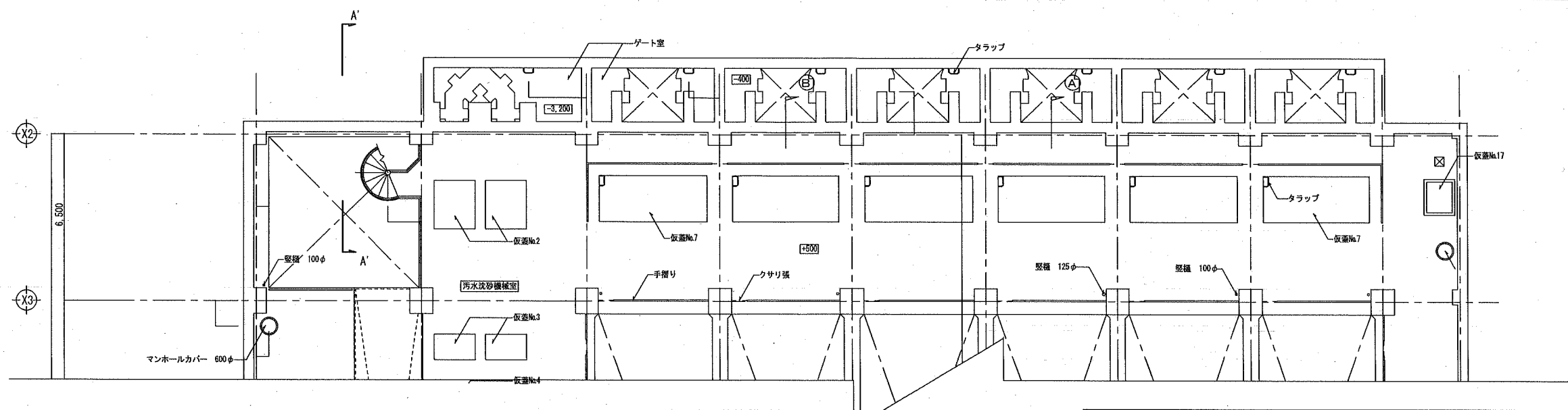
凡例



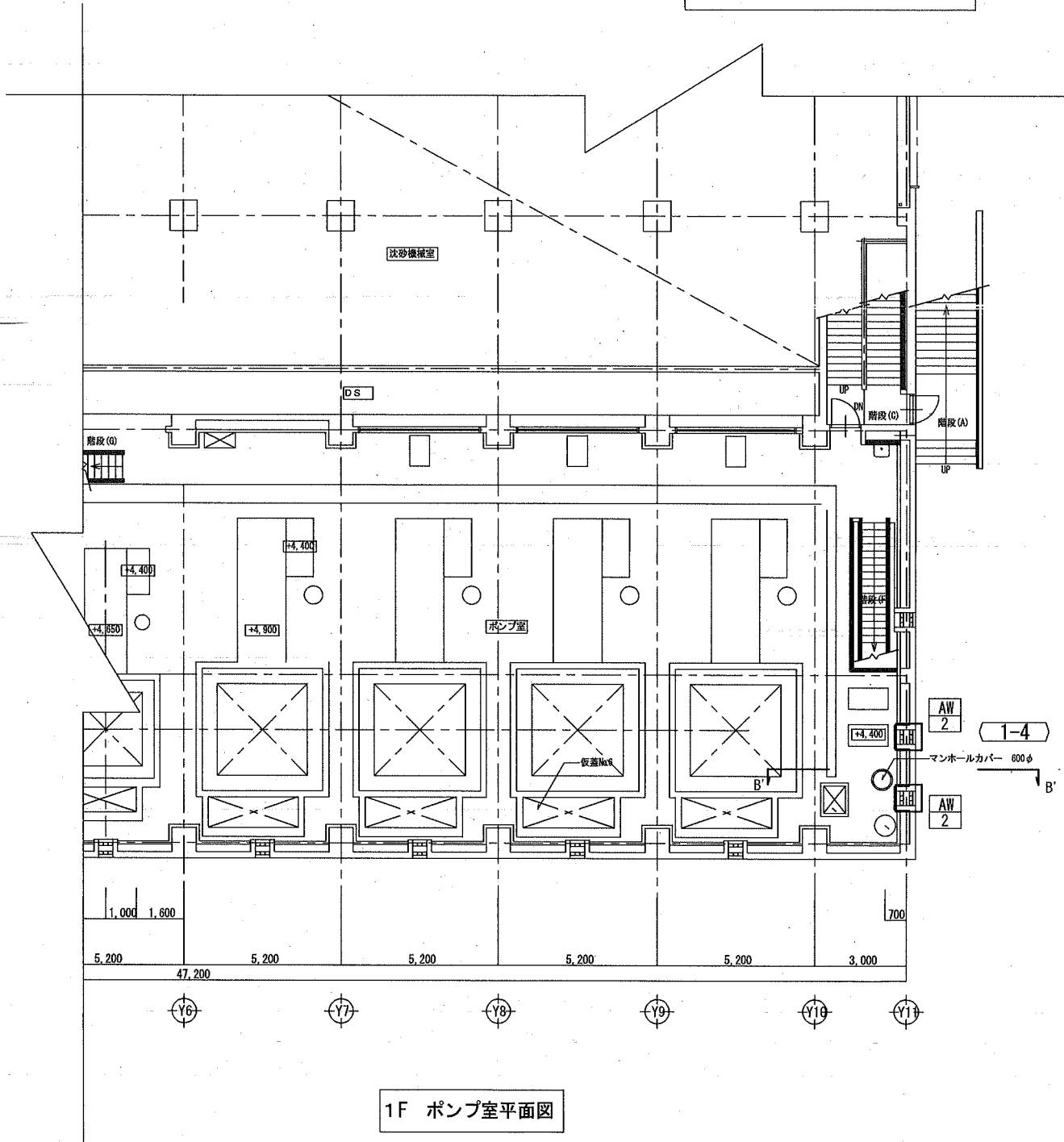
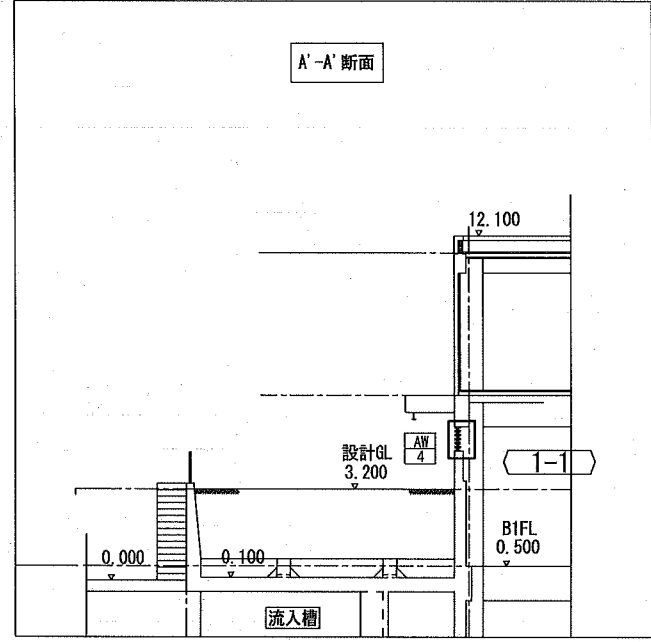
本工事改修範囲を示す

横須賀市上下水道局			
工名	事	舟倉第2ポンプ場	
図名	称	耐震補強建築工事	
縮尺	面	立面図	
製年	作	—	図面番号 A-5
課長	係長	令和 2 年 6 月	
		担当者	設計者

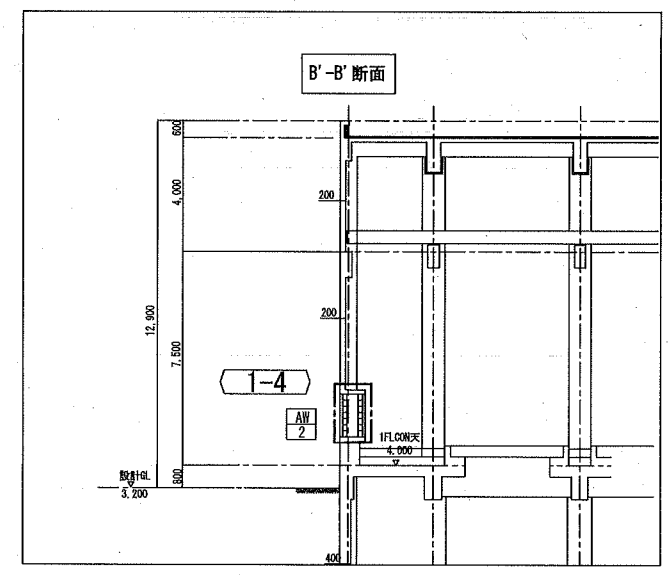




B1F 沈砂池平面図 FL0.5



1F ポンプ室平面図

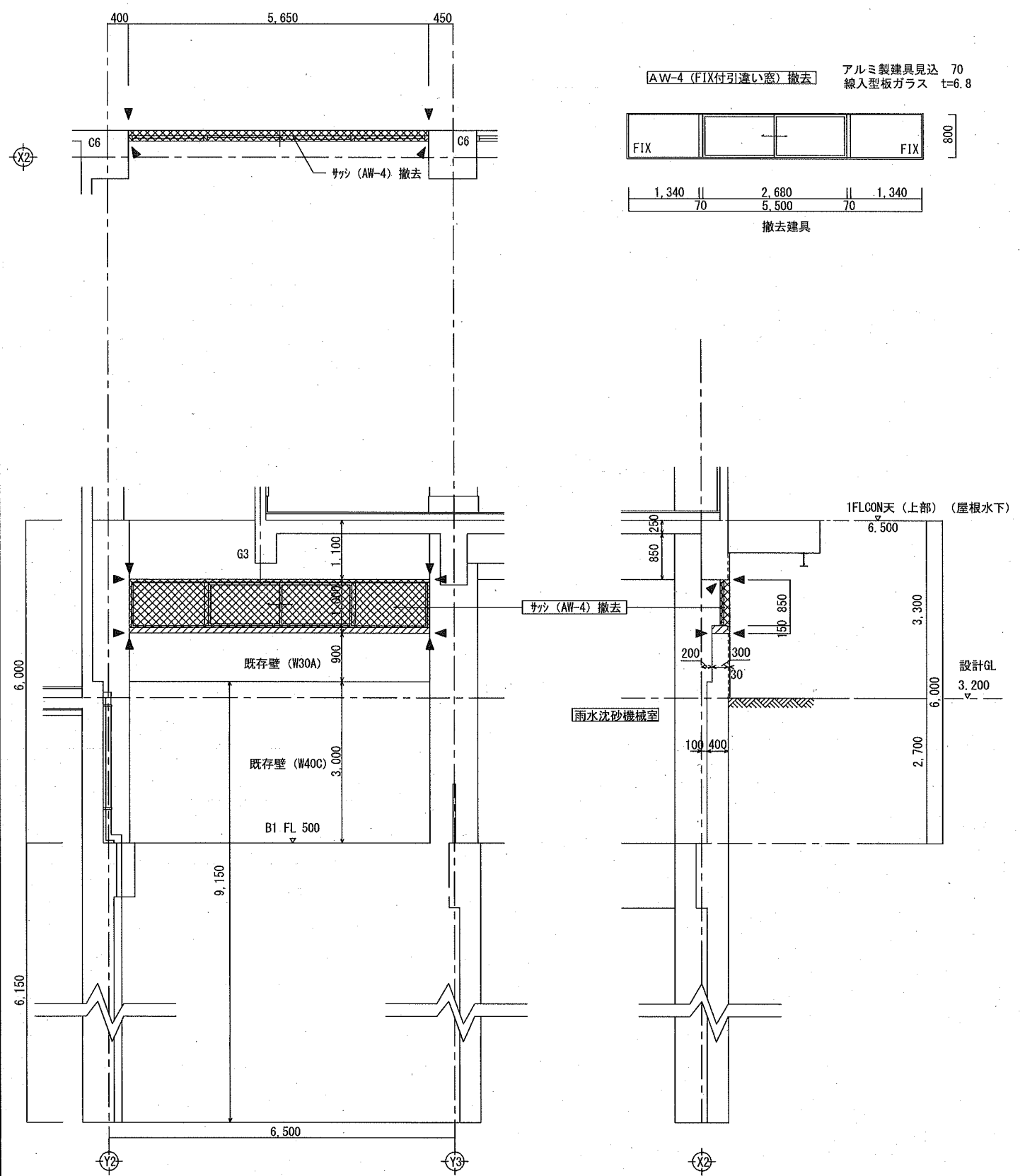


凡例

- 補強工事範囲
- 撤去建具記号
- 階数 N-N 部位番号

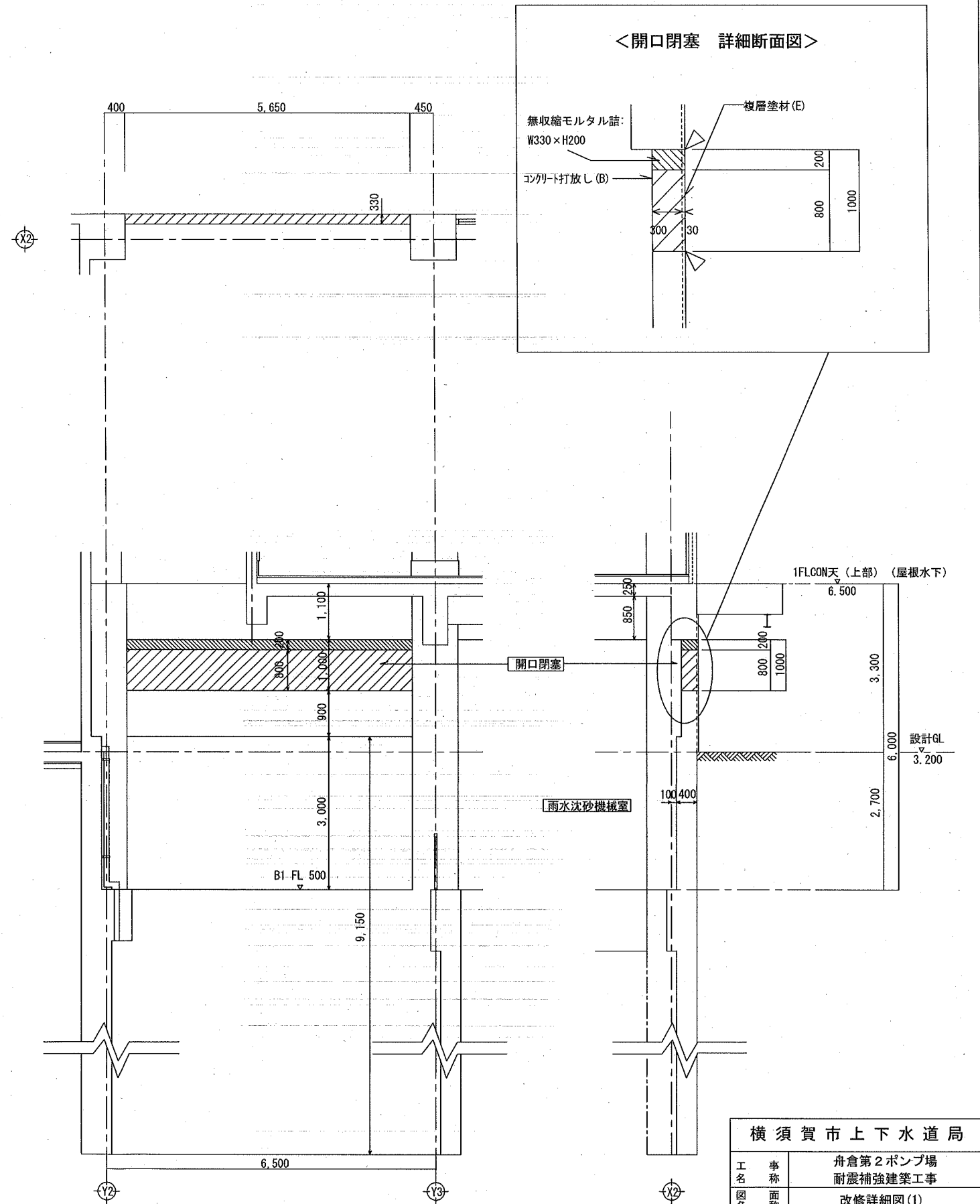
横須賀市上下水道局				
工名	事	舟倉第2ポンプ場		
図名	面	耐震補強建築工事		
縮尺	1:100	図番	A-7	
製年	作月	令和2年6月		
課長	係長	担当者	設計者	





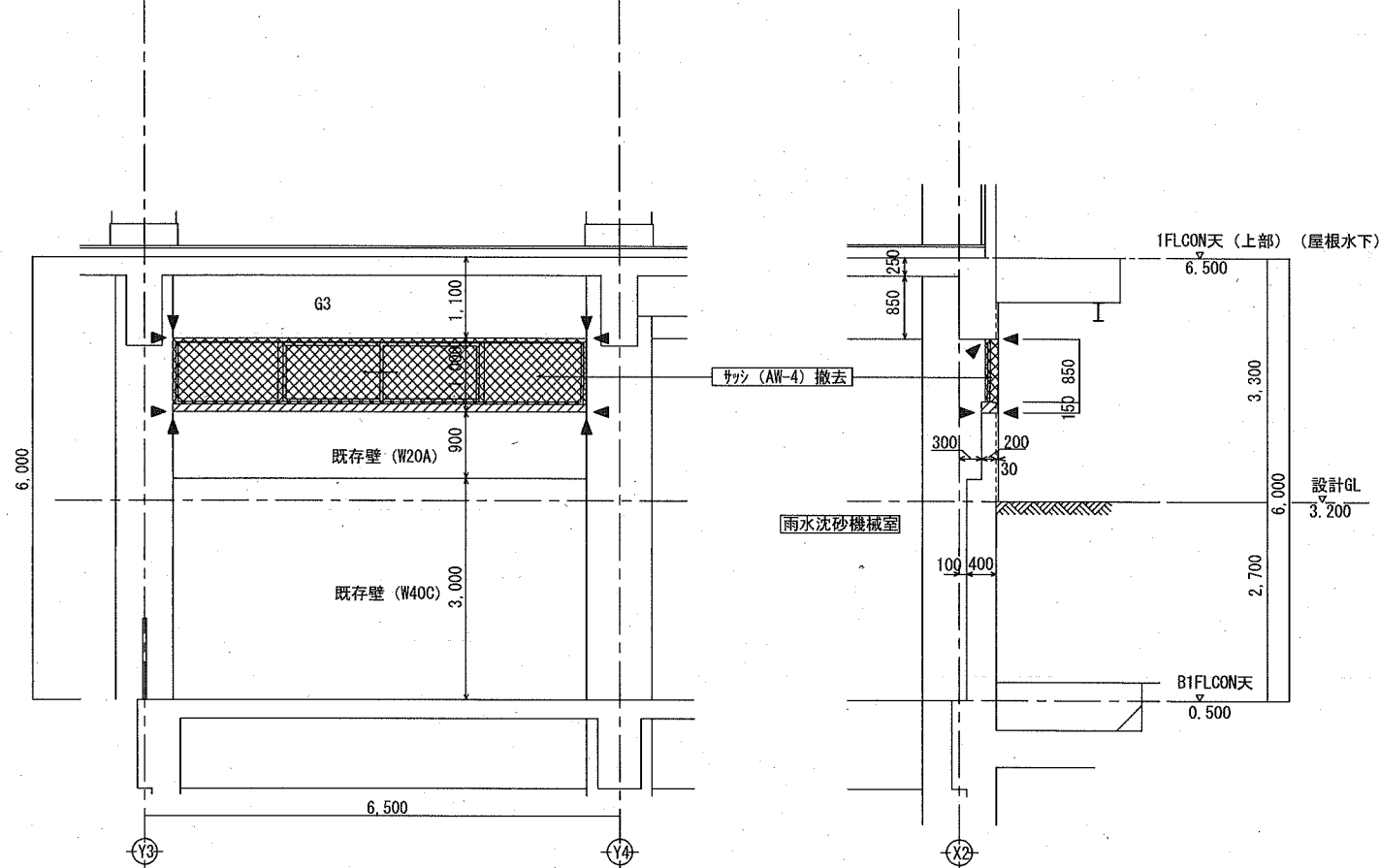
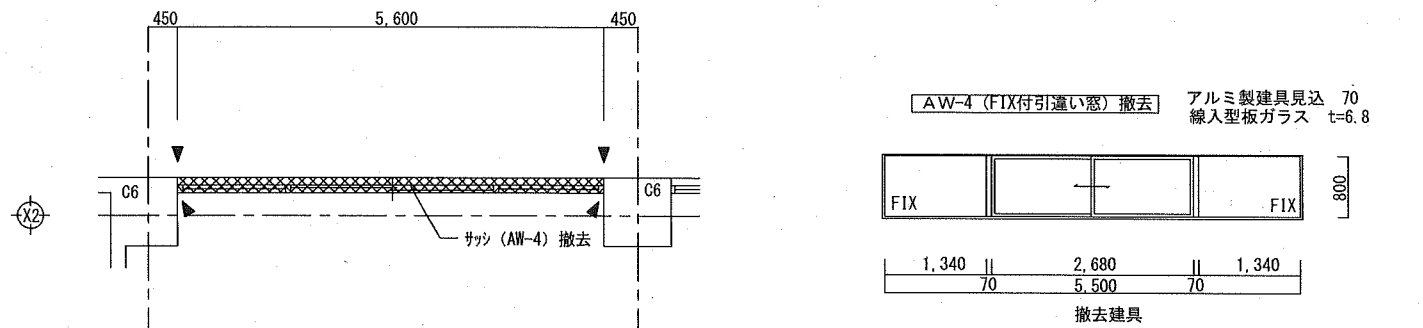
※ 既存壁の内壁仕上は「コンクリート打放」

- 凡例
- ▼ : カッター入位置を示す
  - ▨ : 建具撤去
  - ▧ : コンクリート撤去

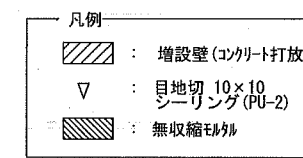
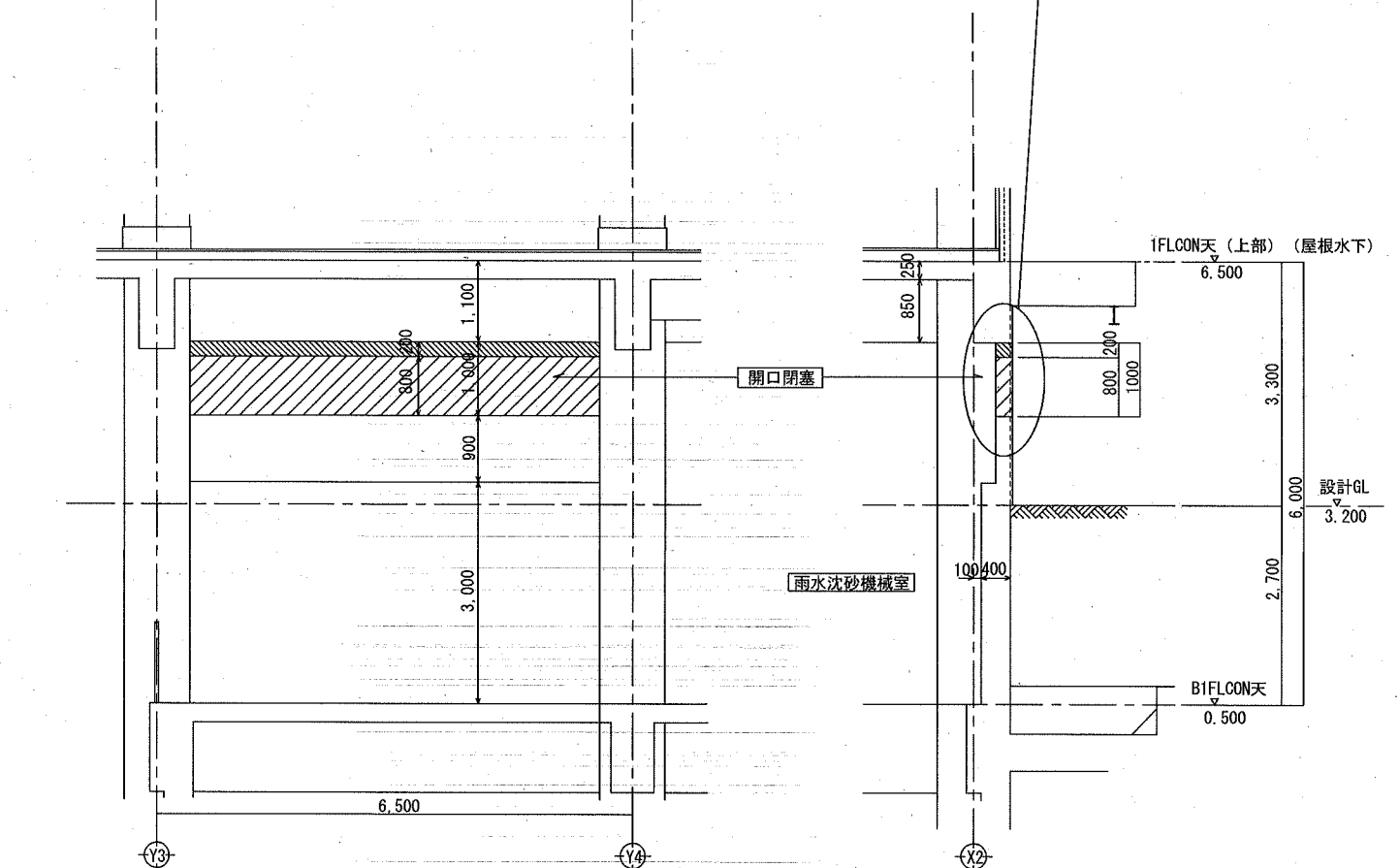
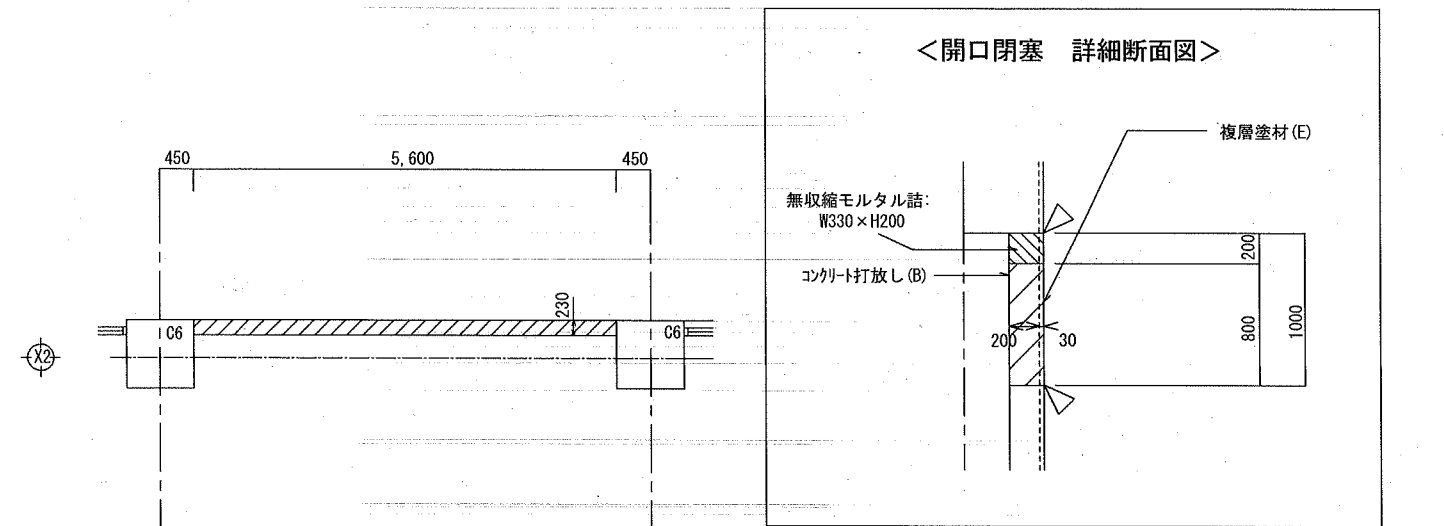
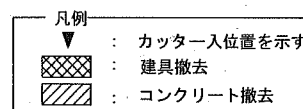


- 凡例
- ▨ : 増設壁(コンクリート打放)
  - ▽ : 目地切 10×10 シーリング(PU-2)
  - ▧ : 無収縮モルタル

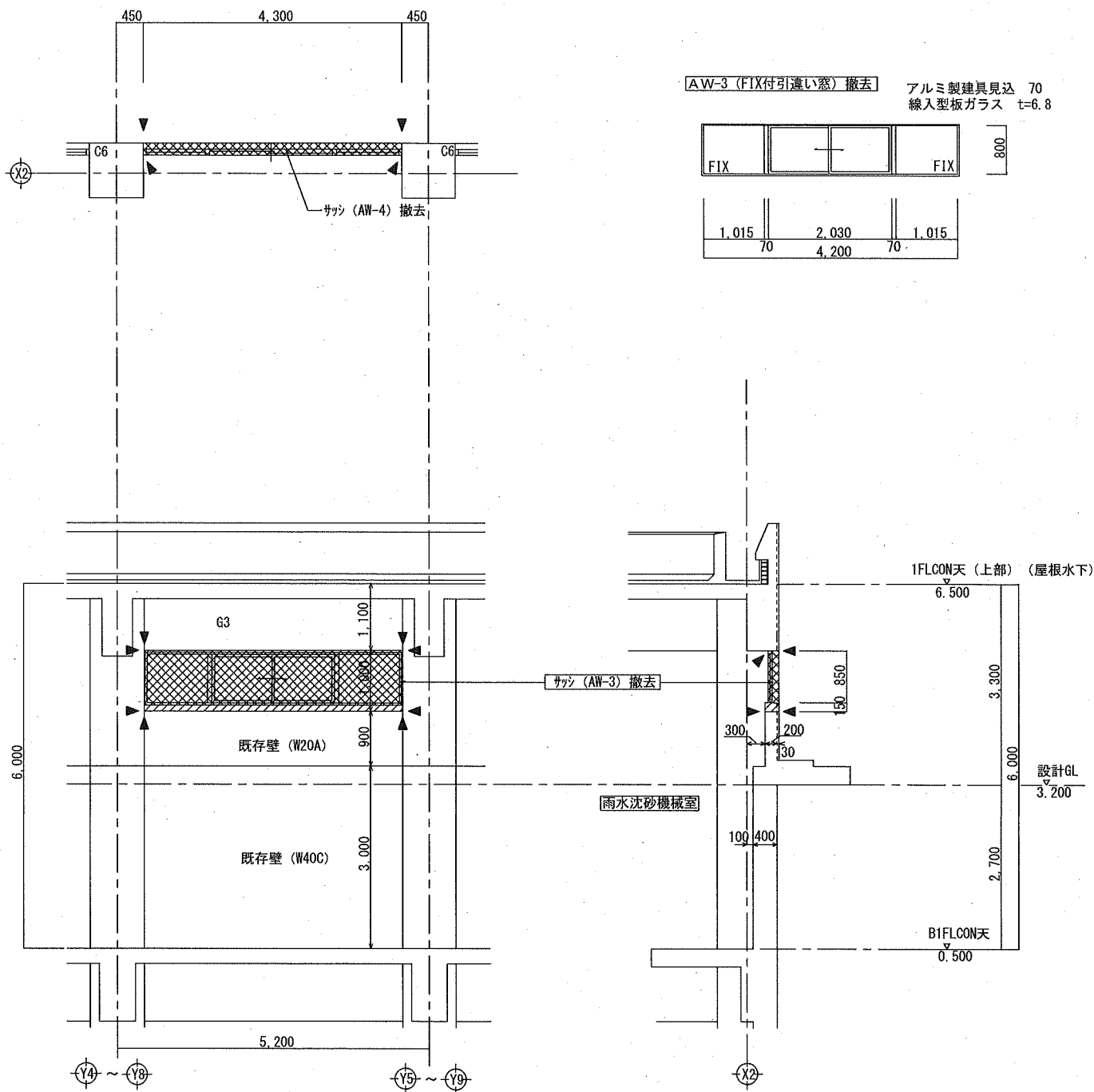
横須賀市上下水道局			
工事名称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図面名称	改修詳細図(1)		
縮尺	1:50	図番	A-8
製年月	令和 2 年 6 月		
課長	係長	担当者	設計者



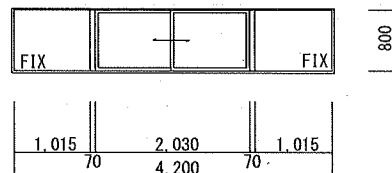
※ 既存壁の内壁仕上は「コンクリート打放」



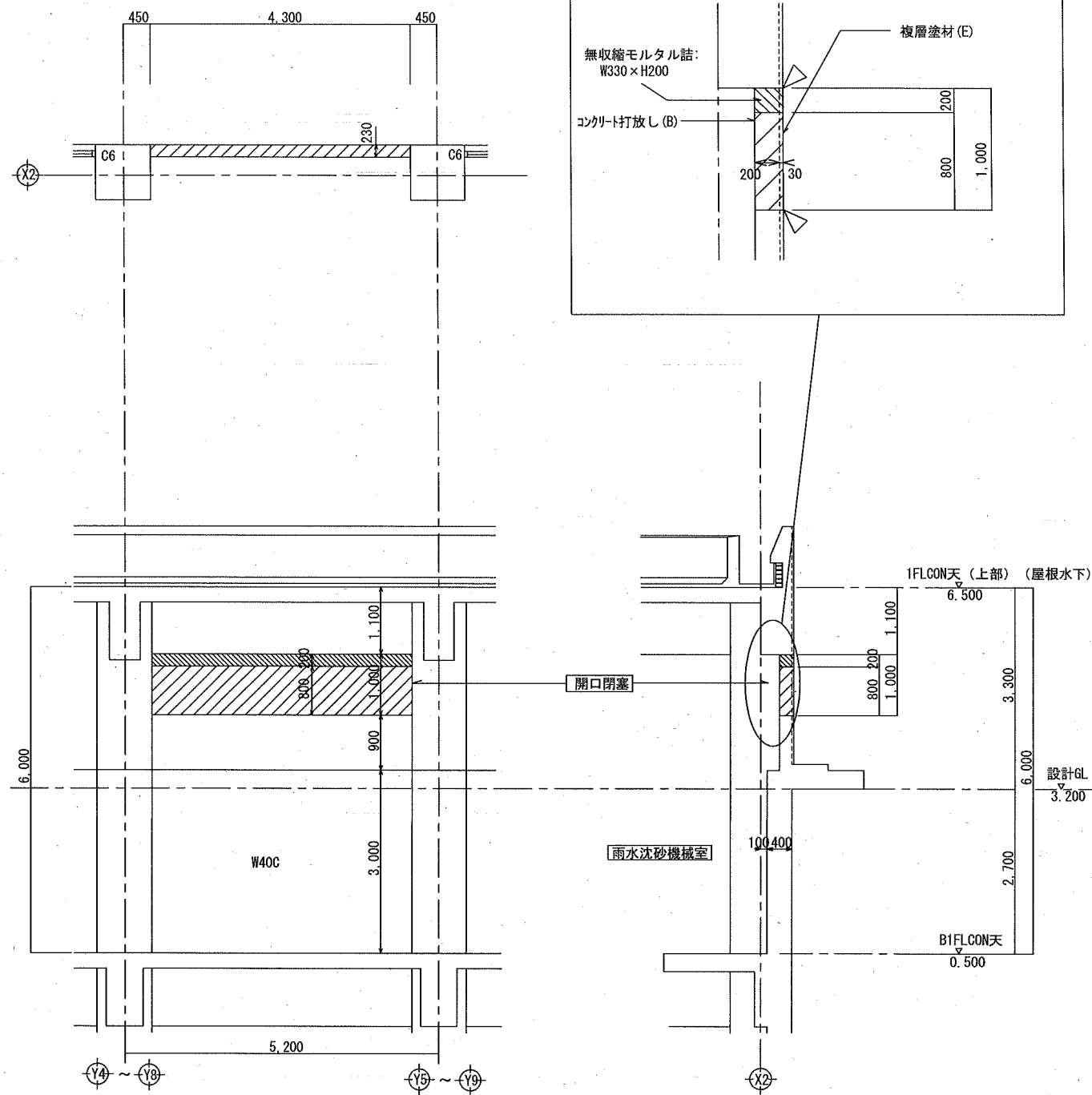
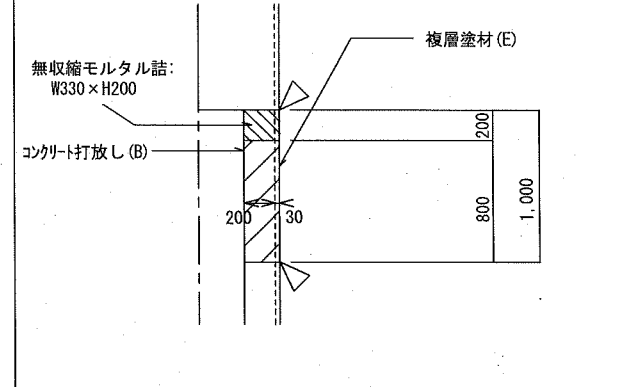
横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図 面 名 称	改修詳細図(2)		
縮 尺	1:50	図 面 番 号	A-9
製 作 年 月	令和 2 年 6 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者



[AW-3 (FIX付引違い窓) 撤去] アルミ製建具見込 70  
線入型板ガラス t=6.8



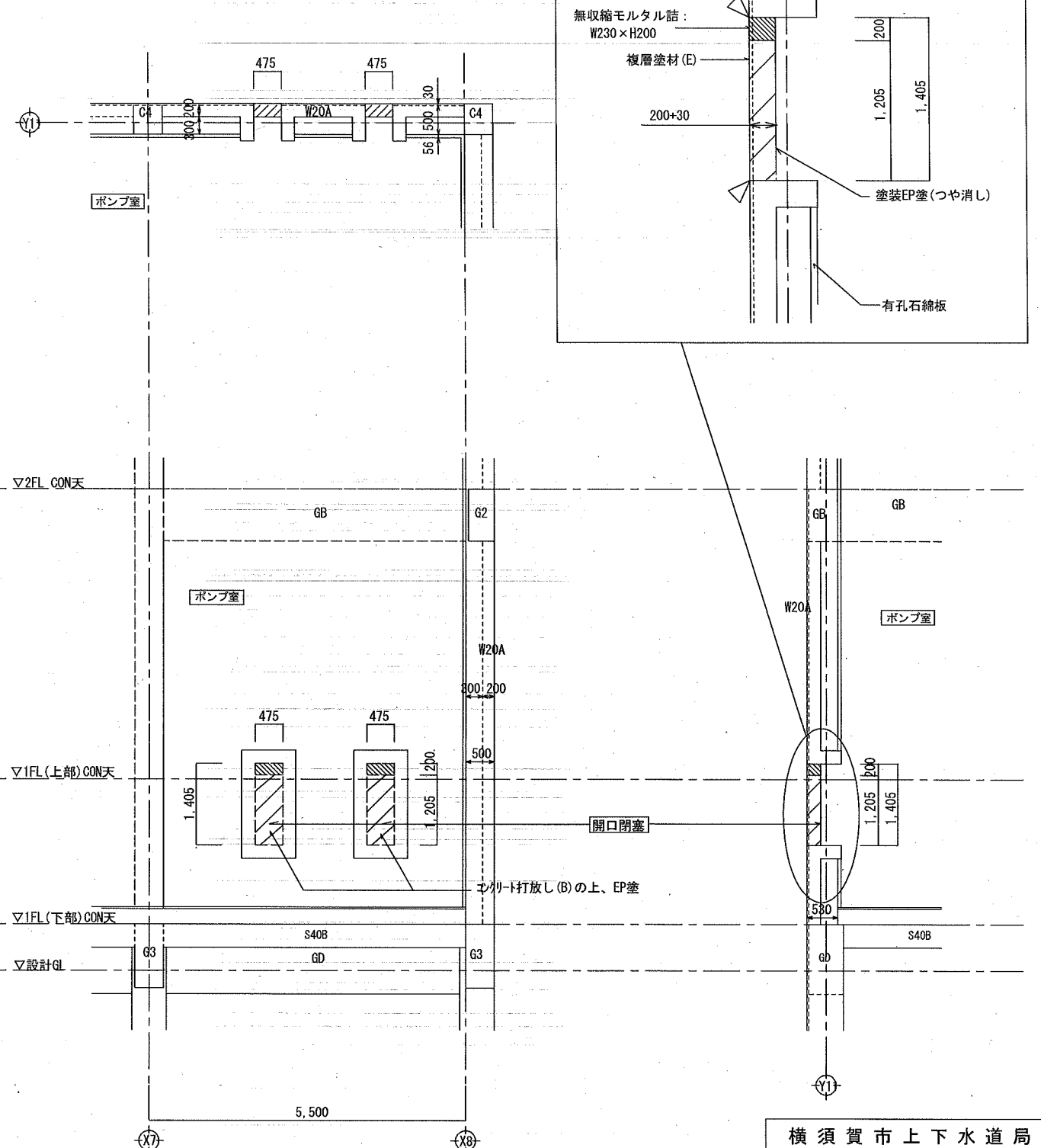
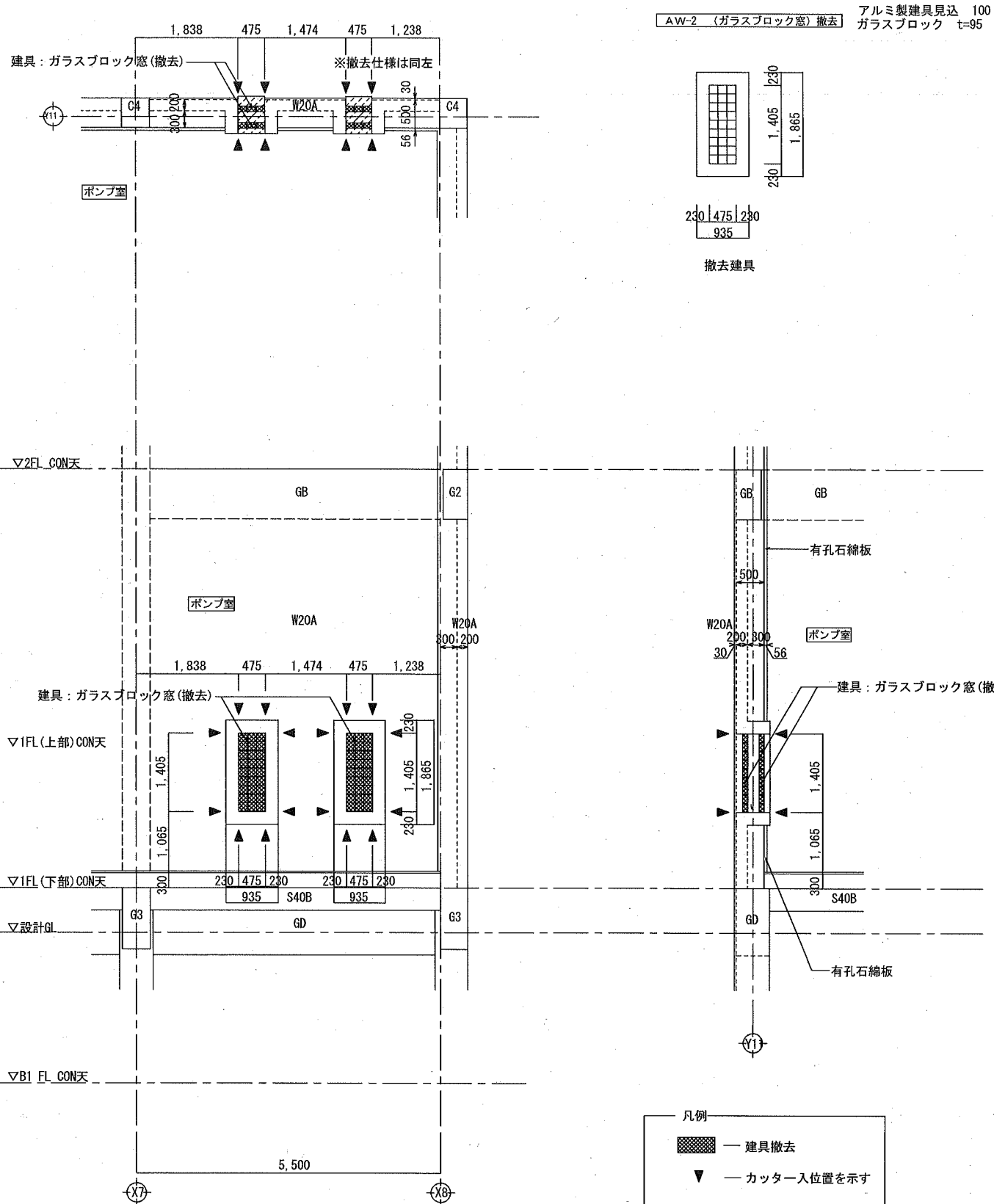
<開口閉塞 詳細断面図>



- 凡例
- : 増設壁(コンクリート打放)
  - : 目地切 10×10 シーリング(PU-2)
  - : 無収縮モルタル

- 凡例
- : カッター入位置を示す
  - : 建具撤去
  - : コンクリート撤去

横須賀市上下水道局			
工名	事	舟倉第2ポンプ場	
図名	面	耐震補強建築工事	
縮尺	1:50	図番	A-10
製年	作月	令和2年6月	
課長	係長	担当者	設計者



横須賀市上下水道局			
工事名称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図面名称	改修詳細図(4)		
縮尺	1:50	図面番号	A-11
製作年	令和2年6月		
課長	係長	担当者	設計者

# 構造細目共通図(複合構造物)

## 1 特記事項

### 1.1 適用範囲

- (1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の複合構造物に適用する。
- (2) 土木工と建築工の区分は図面による。
- (3) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

土木工	1) コンクリート標準示方書・施工編 2) コンクリート標準示方書・設計編	土木学会 土木学会	(2012年版) (2012年版)
建築工	1) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)	国土交通省大臣官房官庁営繕部	(平成31年版)

- (4) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。◎印と⊗印のある場合は、共に適用する。

### 1.2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は1.2.1表による。

1.2.1表 鉄筋の種類及び継手

鉄筋の種類	種別	径	
		土木	建築
鉄筋の種類	SD295A	—	※D16以下
	※SD345 SD390 SD490	※D13以上	—
	SD345	—	※D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外	—
	ガス圧接	※D19以上の柱、梁主筋 ※D16以上の増設壁の床、壁鉄筋	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	・図面による。	—

### 1.3 コンクリートの仕様

コンクリートは1.3.1表による。

1.3.1表 コンクリートの仕様

分類	コンクリート種別	設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	スランプ(cm)	セメントの種類
土木	鉄筋コンクリート	※24 30	※12	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント
	無筋コンクリート	※18	※12	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント
建築	鉄筋コンクリート	※24 21	※18 15	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB
	無筋コンクリート	※18	※15	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB

注1: 無筋コンクリートには均しコンクリート、捨てコンクリートを含む。

## 1.4 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリート

砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの厚さは1.4.1表による。

1.4.1表 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの仕様

部位	種別	厚さ(mm)
土木工	砂利または砕石	※200
	均しコンクリート	※100
建築工	砂利または砕石	※60
	捨てコンクリート	※50

## 2 共通事項

### 2.1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2.1.1表及び2.1.2表を標準とする。

2.1.1表 鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築	●	×	○	●	○	◎	⊗	⊗	⊗
土木	●	×	○	●	○	◎	⊗	⊗	⊗

●又は建築による。

2.1.2表 一般凡例

記号	内容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中梁はFとする ※2 その階の番号 X方向A, 2, 3--- Y方向A, B, C---
CG※	片持大梁断面種別	※番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E:耐震壁、K:階段壁 D:土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※2 壁厚(cm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみGとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A:片持床版形 B:二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※壁厚(cm)
打増し範囲		
梁・床版の上がり下がり		一般には基準Fしよりの+、-に 応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(kN/m <sup>2</sup> )
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止め筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

### 2.2 一般注意事項

- (1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。
- (2) 配筋等に関しては、施工図を作成し監督職員の確認を得ること。

## 3 土木工事

### 3.1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3.1.1表及び3.1.2表を標準とする。

(1) Dは、折曲げ内法直径を示す。

(2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

3.1.1表 鉄筋曲げ加工(1)

位置	曲げ角度	折曲げ図及び折曲げ後の余長	曲げ内法直径	使用箇所
末端部	180°	4d以上かつ60mm以上	5d以上	定着末端部
	135°	6d以上かつ60mm以上	5d以上	スターラップ、帯鉄筋、フープ筋等
	90°	4d以上かつ60mm以上	5d以上	梁、壁、床版底版
中間部	90°	100mm	5d以上	幅止め鉄筋
	θ<90°	直交方向に90°	10d以上	折曲げ鉄筋

3.1.2表 鉄筋曲げ加工(2)

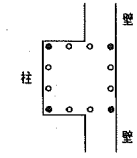
位置	曲げ角度	折曲げ図	曲げ内法直径	使用箇所
最上階	90°	D	20d以上	ラーメン隅角部
一般階	90°	D	5d以上	

### 3.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、3.2.1表によりフックを設ける。

3.2.1表 フックを設ける位置

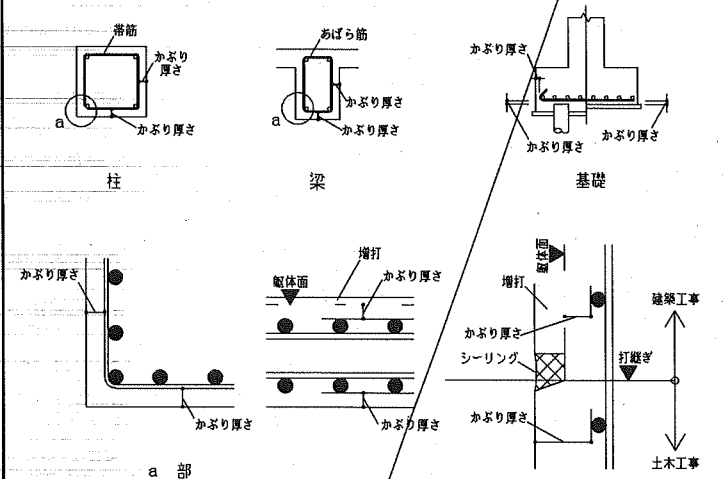
部位	継手方式		備考
	重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	1) 最上階の柱頭	3.2.1 図の●印 3.8.1 図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	1) 下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部	3.2.1 図の●印 3.8.2 図参照
梁	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	3.9.1 図参照
	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	3.12.1 図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底版筋	1) 末端部 2) 継手部	3.25.1 図参照
	埋入鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋			3.1.1 表参照



3.2.1 図 異形鉄筋の末端部

### 3.3 鉄筋のかぶり及び間隔

3.3.1 かぶり厚さ  
かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋を除く)の外側から躯体面までの距離(3.3.1 図)をいう。鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



3.3.1 図 鉄筋のかぶり厚さ

### 3.3.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、3.3.1表による。床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。

3.3.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

※ 通常の施工の場合

環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
大気中	床版・スラブ・梁	50	50	-
	水中・土中等	50	70	70

・ 塩害対策地域の施工の場合

対策区分	環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
I	大気中	床版・スラブ・梁	70	70	-
		水中・土中等	50	70	70
II, III	大気中	床版・スラブ・梁	50	70	-
		水中・土中等	50	70	70

- 1: 部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。
- 2: 杭基礎の底版・フーチング下階筋のかぶり厚さは、7.杭基礎の補強を参照する。

(注) 梁: 大梁、小梁、基礎梁、片持梁をいう。

## 横須賀市上下水道局

工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図 面 名 称	構造細目共通図(1)		
縮 尺	—	図 面 号	S-1
製 作 月 年	令和 2 年 6 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

4 建築工事

4.1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、4.1.1表及び4.1.2表を標準とする。  
 (1) Dは、折曲げ内法直径を示す。  
 (2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

4.1.1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部)

曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		使用箇所
		SD295A, SD345 D16以下	D19~D38	
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、スパイラル筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	90°、135° 幅止め筋

(注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。  
 2. 90°未満の折曲げの内法直径は図示による。

4.1.2表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(中間部)

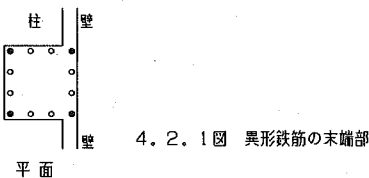
曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		SD295A, SD345 D16以下	D19~D25	D29~D38	
90°以下		3d以上	4d以上	-	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
		4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

4.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、4.2.1表によりフックを設ける。

4.2.1表 フックを設ける位置

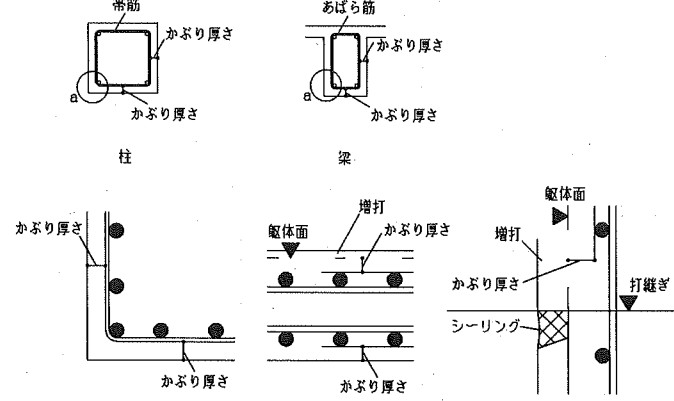
部位	継手方式		備考
	重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	—	1) 最上階の柱頭部 4.2.1 図の●印 4.7.1 図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	—	1) 下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部 4.2.1 図の●印 4.7.2 図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部
梁	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 4.11.1
	煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 壁の一部となる場合を含む 図参照
幅止め筋	—	—	4.1.1 表参照



4.3 鉄筋のかぶり及び間隔

4.3.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外側から躯体面までの距離(4.3.1図)をいう。  
 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



4.3.1 図 鉄筋のかぶり厚さ

4.3.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、4.3.1表による。  
 (1) 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含めない。  
 (2) 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保して最小かぶり厚さを定める。  
 (3) 溶接金網にも適用する。

4.3.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

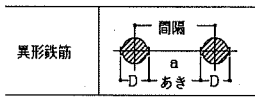
構造部分の種類	埋設区分		
	※ 通常の施工の場合	◎ 埋設対策を必要とする場合	
一般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
	底版、基礎	60	70
煙突等高温を受ける部分	60	70	

1: 打設目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。  
 2: 仕上なしの場合を標準とする。

4.4 鉄筋相互のあき

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手のあきは、図面による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 最小のあき25mm
- (3) 異形鉄筋の直径(呼び径)の1.5倍以上



(注) D: 鉄筋の最大径 d: 鉄筋直径(呼び名)

4.4.1 図 鉄筋のあき

4.4.1表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(mm)	鉄筋相互のあき: a			最小鉄筋芯間隔 a+D
	(1) 最大径 D	(2) 粗骨材径×1.25	(3) 最小あき	
D10	11	31mm	25mm	15mm
D13	14			20mm
D16	18			24mm
D19	21			29mm
D22	25			33mm
D25	28			38mm
D29	33			44mm

4.5 鉄筋の継手及び定着

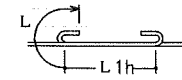
4.5.1 鉄筋の重ね継手

(1) 鉄筋の重ね継手及び定着の長さは、4.5.1表による。  
 (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。  
 (3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

4.5.1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	L1 (フックなし)		L1h (フックあり)	
		L1	L2	L1h	L2h
SD295A	21	40d	30d	30d	25d
	24 27	35d	25d	25d	20d
	30	35d	30d	25d	20d
SD345	21	45d	30d	30d	25d
	24 27	40d	30d	30d	25d
	30	35d	30d	25d	20d

(注) 1. L1, L1h: フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ  
 2. フックありの場合のL1hは、4.5.1図に示すようにフック部分Lを含めない。



4.5.1 図

4.5.2 継手の特記事項

(1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。  
 (2) 異径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

4.5.3 鉄筋の定着

(1) 鉄筋の定着の長さは、4.5.2表による。

4.5.2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	フックなし				フックあり			
		L1	L2	L3	L1h	L2h	L3h	L3h	
SD295A	21	40d	35d	L3	30d	25d	L3h	L3h	
	24, 27	35d	30d	L3	25d	20d	L3h	L3h	
	30	35d	30d	20d	25d	20d	L3h	L3h	
SD345	21	45d	35d	L3	30d	25d	L3h	L3h	
	24, 27	40d	35d	10d	30d	25d	L3h	L3h	
	30	35d	30d	10d	25d	20d	L3h	L3h	

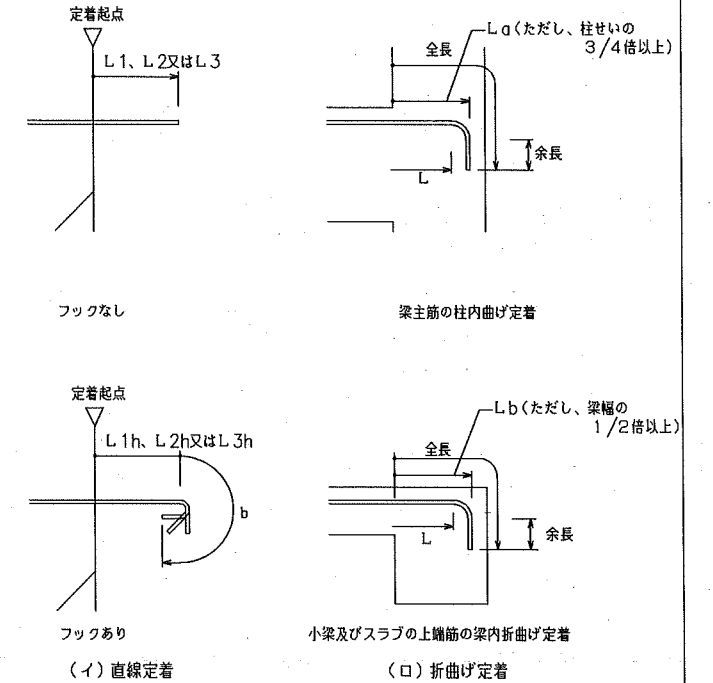
(注) 1. L1, L1h: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ  
 2. L2, L2h: 割裂破壊の恐れのない箇所への直接定着の長さ及びフックありの定着の長さ  
 3. L3: 小梁及びスラブの下端筋の直筋の直線定着長さ(基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁を除く。)なお、片持ち小梁及び片持ちスラブの場合は20d及び10dを25d以上とする。  
 4. L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ  
 5. フックありの定着の場合は、4.5.2図(イ)に示すようにフック部分bを含めない。また中間部での折曲げは行わない。

4.5.4 定着の方法

定着の方法は4.5.2図による。  
 なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、4.5.2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を4.5.2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを4.5.3表に示す長さのみ込ませる。

(注) 1. L, Lh, Lbは、4.5.3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記の条件を満たすものとする。

- ・梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上
- ・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
- ・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上



4.5.2 図 定着の方法

4.5.3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	La	Lb
SD295A	24 27	15d	15d
	30	15d	15d
	24 27	20d	15d
SD345	30	15d	15d

(注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ちスラブを含む。)  
 2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

横須賀市上下水道局

工事名称	舟倉第2ポンプ場耐震補強建築工事		
図面名称	構造細目共通図(2)		
縮尺	—	図面番号	S-2
製作年月	令和2年6月		
課長	係長	担当者	設計者

# あと施工アンカー(接着系)

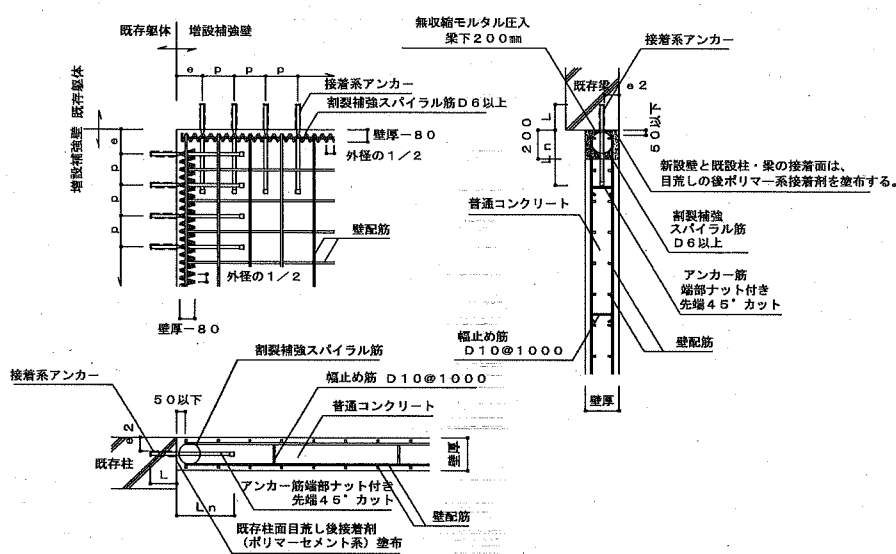
## 一般仕様

- 使用鉄筋
  - 異形棒鋼とし、SD295A(D10~D16)、SD345(D19~ )とする。
- 使用コンクリート設計基準強度
  - $F_c = 21 \text{ N/mm}^2$  以上 (普通コンクリート) スランプ18cm
- モルタル設計基準強度 (無収縮)
  - $F_m = 30 \text{ N/mm}^2$  以上
- あと施工アンカー
  - 本体: 接着系アンカーとする。
  - 接着剤: 樹脂カプセル型ポリエステル系、エポキシアクリレート系とする。
  - 接合部: 異形棒鋼とし、鉄筋の接合は機械式継手とする。
- 注意事項
  - 増設部材と既存コンクリート躯体との接合面については
    - 既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート打設前に充分な水湿しを行う。
  - コンクリートの打設にはバイブレーターの使用、又はタタキにより密実なコンクリートとなるように充分な施工計画を立てる。
  - 増打ちコンクリートは無収縮コンクリートとして計画施工する。
  - 増打ちコンクリートはスラブ下20cmまで打設し壁頂部は無収縮モルタル圧入とする。
  - コンクリートの強度発現期間中は充分な湿潤状態で養生する。また養生期間中は振動等を与えないように注意する。

- 接着系アンカーの施工
  - 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存部の損傷を極力避ける。
  - 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
  - アンカーの穿孔時に既存鉄筋に当たった場合は、受材の取り付けに有効で、かつ、耐力上支障のない部分に穿孔位置を変更する。
  - 使用しない孔は、セメントモルタル等を充填する。
  - 現場施工されたあと施工アンカーは、全数の打音調査により、その固着度を確認し監督職員に報告書を出し承諾を受ける。
  - 引き抜き耐力の確認試験は、機械的簡易引抜試験機による引張試験とする。
    - 試験箇所数は、同一施工条件のあと施工アンカーを1ロットとし、1ロットの施工箇所数の5%、かつ、3本以上とする。
    - 引張試験の試験荷重は、下表の数値を試験荷重とし、過大な変位を起こさず耐えられるものを合格とし、すべての試験箇所が合格すれば、そのロットを合格とする。
    - 以上の試験において、一箇所でも不合格のものがあつた場合には、さらに、そのロット全数の20%を抜き取り、試験箇所の全数が合格すれば、ロットを合格とし、1箇所でも不合格のものがあつた場合には、全数について1)の引張試験を行う。
    - 不合格となつたものは、切断等の処置を行いa)~d)により、新たに施工し、更に2)による引張り試験を行う。
- あと施工アンカーの埋込み長さは、図示による。

アンカー筋呼び名 (da)	引張試験荷重 (kN)	
	埋込み長: 8da	埋込み長: 11da
D13	21	25
D16	32	40
D19	45	66
D22	60	90
D25	78	117

## 新設壁の標準配筋要領図



アンカー筋	Ln (20da)	L (8da)
D13	260mm	104mm以上
D16	320mm	128mm以上
D19	380mm	152mm以上
D22	440mm	176mm以上
D25	500mm	200mm以上

※但し、梁側及び開口補強の場合はL=11daを原則とする。

アンカー筋	P	o
D13	100mm以上	65mm以上
D16	120mm以上	80mm以上
D19	145mm以上	95mm以上
D22	165mm以上	110mm以上
D25	190mm以上	125mm以上

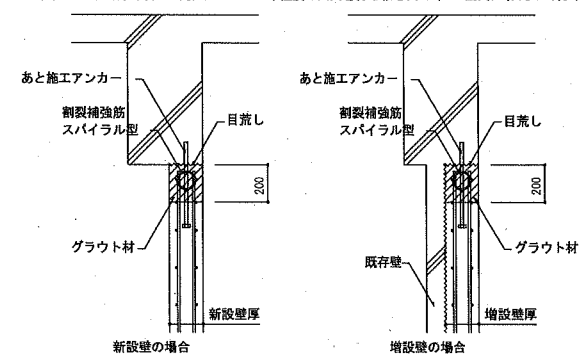
※但し、Pの最大は300mmとする。

へりあき $\phi 2$ : 2.5da以上かつ帯筋、あばら筋の内側に配置 注1) da: アンカー筋径

アンカー筋呼び名 (da)	引張設計強度 (kN)	
	埋込み長: 8da	埋込み長: 11da
D13	32	38
D16	48	59
D19	67	99
D22	90	134
D25	116	175

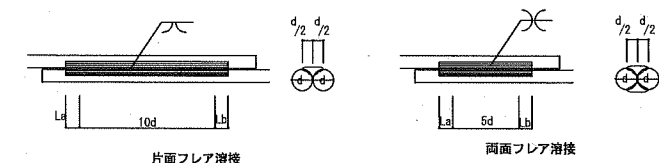
## 新設・増設壁上部グラウト要領

- 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。
- グラウト材は早強型特殊セメント系無収縮モルタルとし、調合はプレミックスとする。
- グラウト材の設計基準強度は $30 \text{ N/mm}^2$ 以上とする。調合はJIS R 5201 (セメントの物理試験方法) のフロー試験によるモルタルのコンスタンスンチーに準じ、フロー値は180mm以上240mm未満とする。コンスタンスンチー試験はJ14ローテ試験法に準ずる。
- 目荒しは平均深さ約5mm (最大で10~15mm) 程度の凹凸を打ち継ぎ面の3/4~全面にわたって付けること。

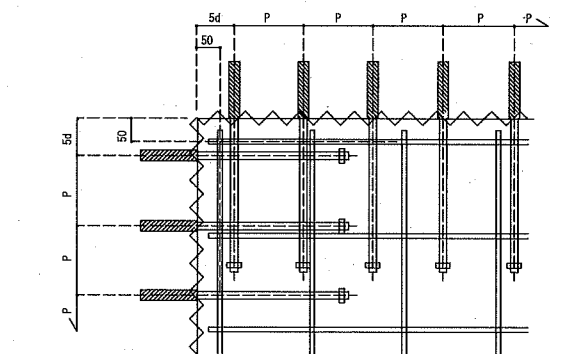


## 鉄筋フレア溶接要領

- 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。
- 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点(La)及び、クレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。但し、La及びLbは2d以上とする。



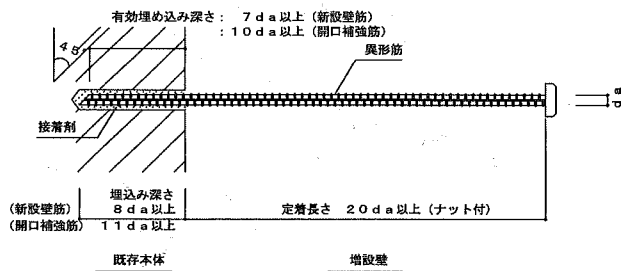
## アンカー筋ピッチ標準

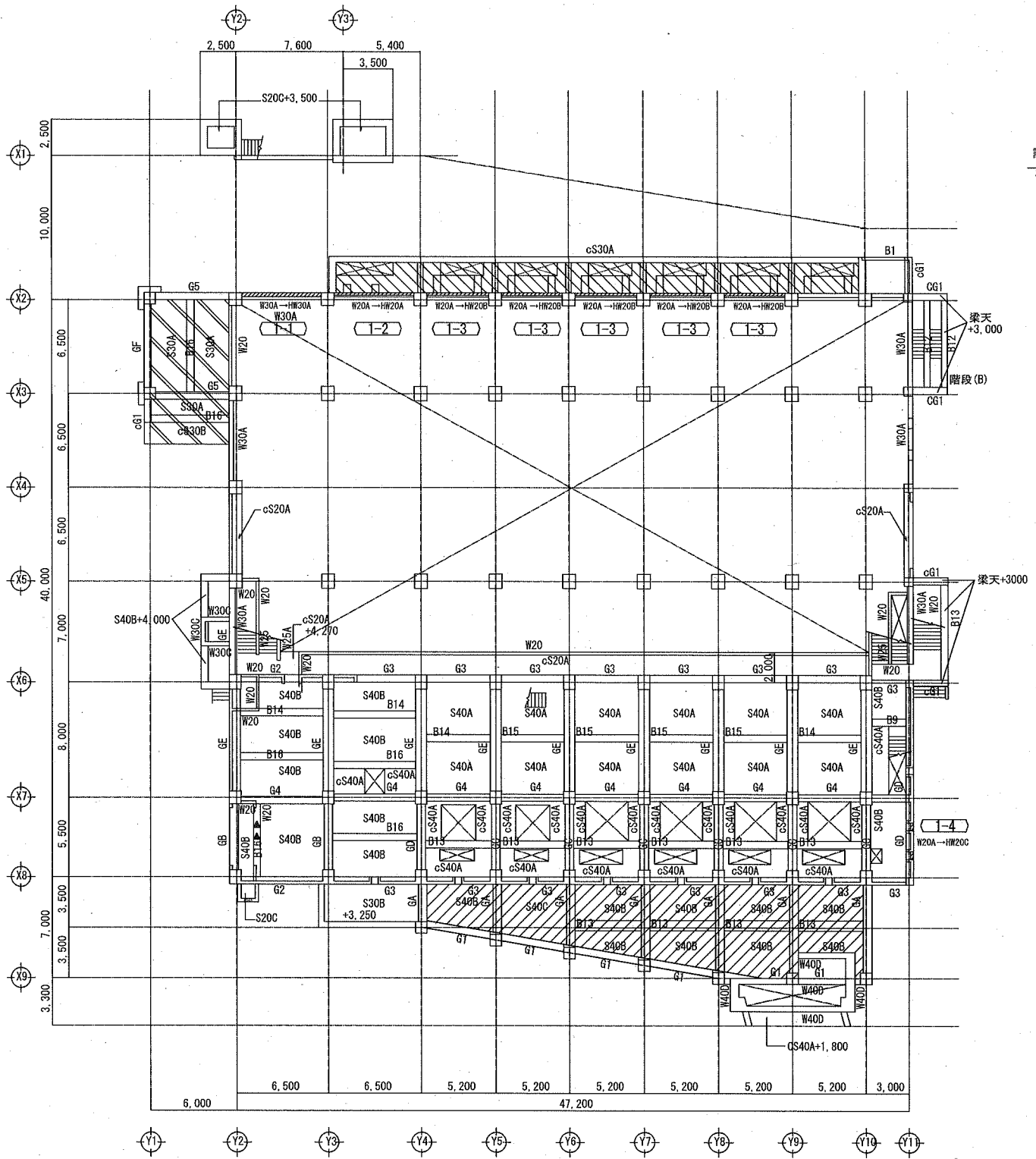


## 横須賀市上下水道局

工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場		
	耐震補強建築工事		
図 面 名 称	構造細目共通図(3)		
縮 尺	-	図 面 号	S-3
製 作 年 月	令和 2 年 6 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

## 接着系アンカー詳細図



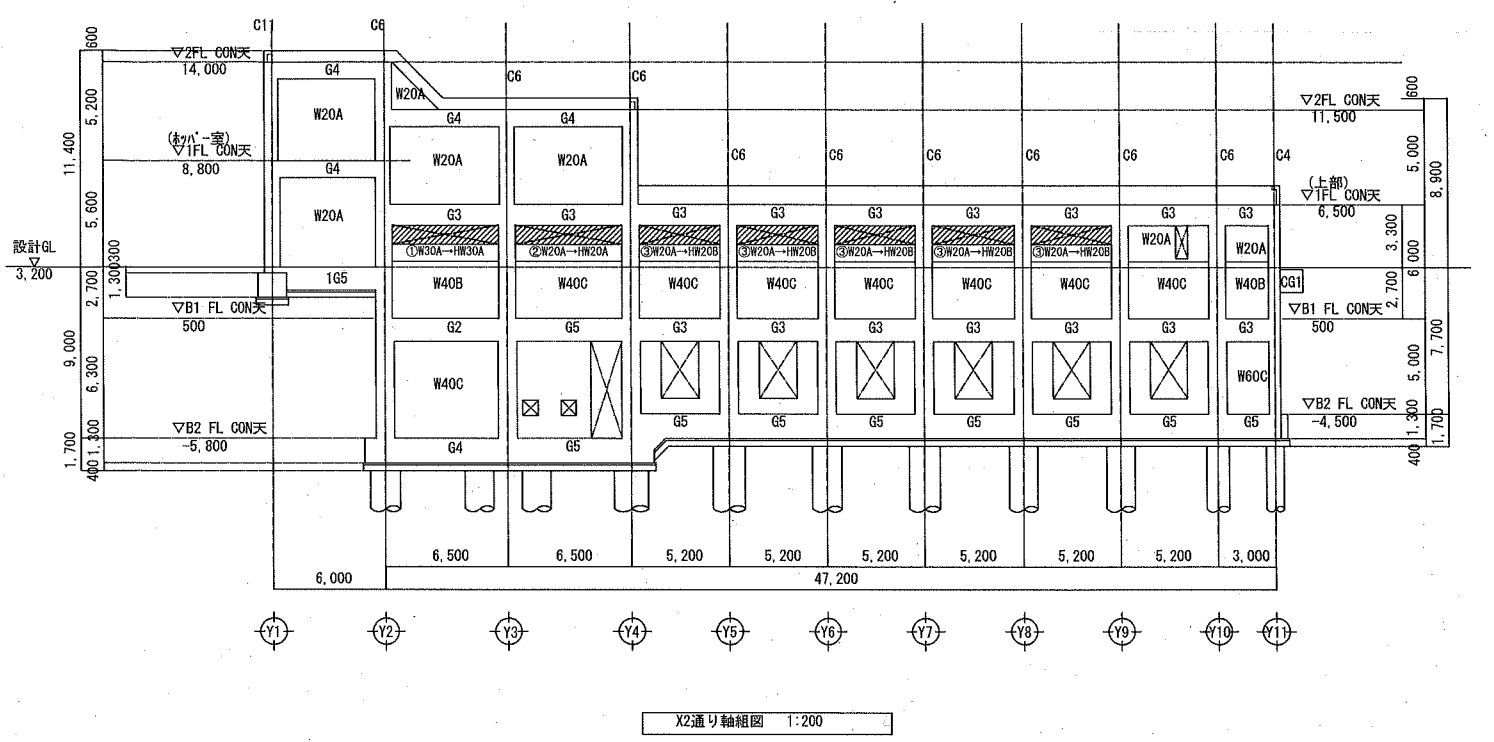


番号	既存壁符号	補強後壁厚	補強内容	補強壁符号
1-1	W30A	—	開口部閉塞	HW30A
1-2	W20A	—	開口部閉塞	HW20A
1-3	W20A	—	開口部閉塞	HW20B
1-4	W20A	—	開口部閉塞	HW20C

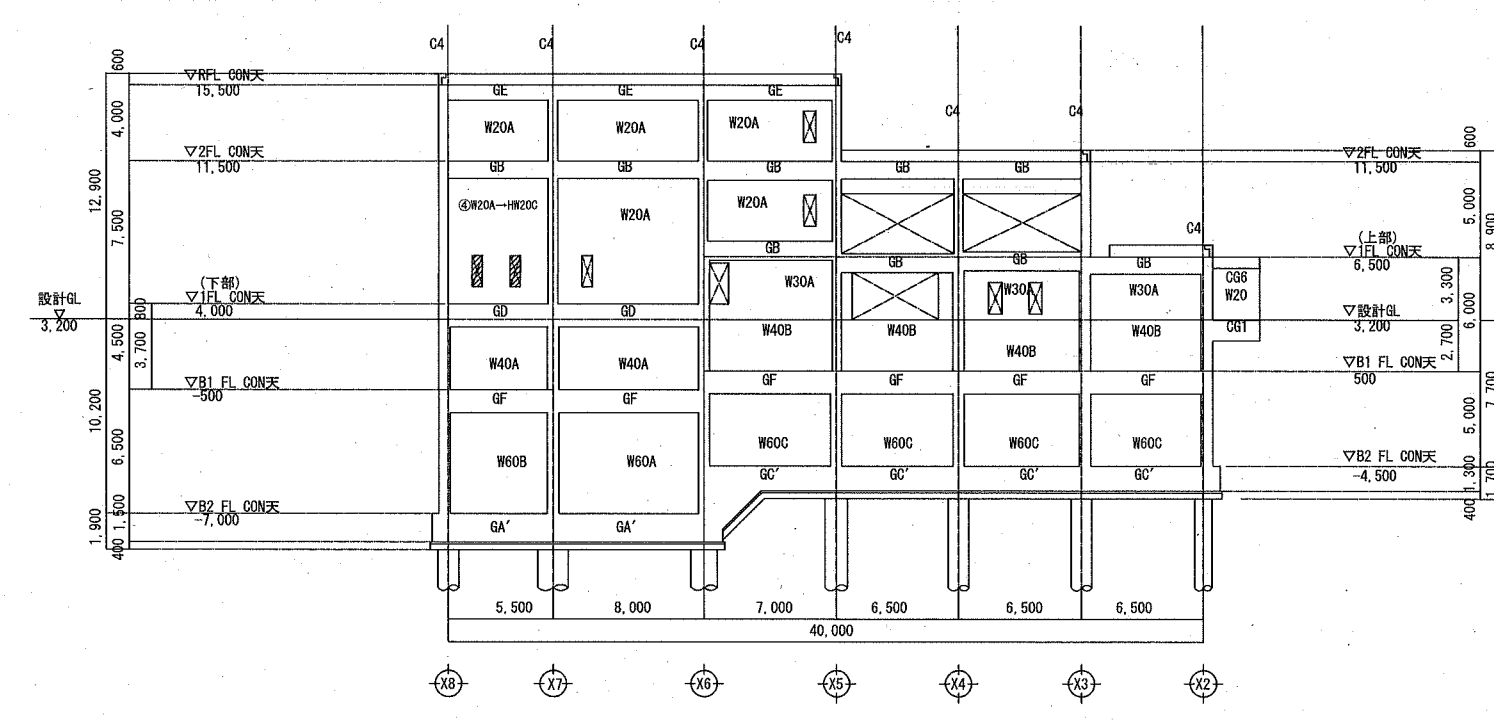
1階(下部) 伏図 1:200

特記なき限り内壁は W15, 外壁は W20Aとする  
 特記なき限り 梁 スラブ厚は +4,000

— 部分は +3,200  
 — 部分は +3,300  
 — 部分は +3,500



X2通り軸組図 1:200

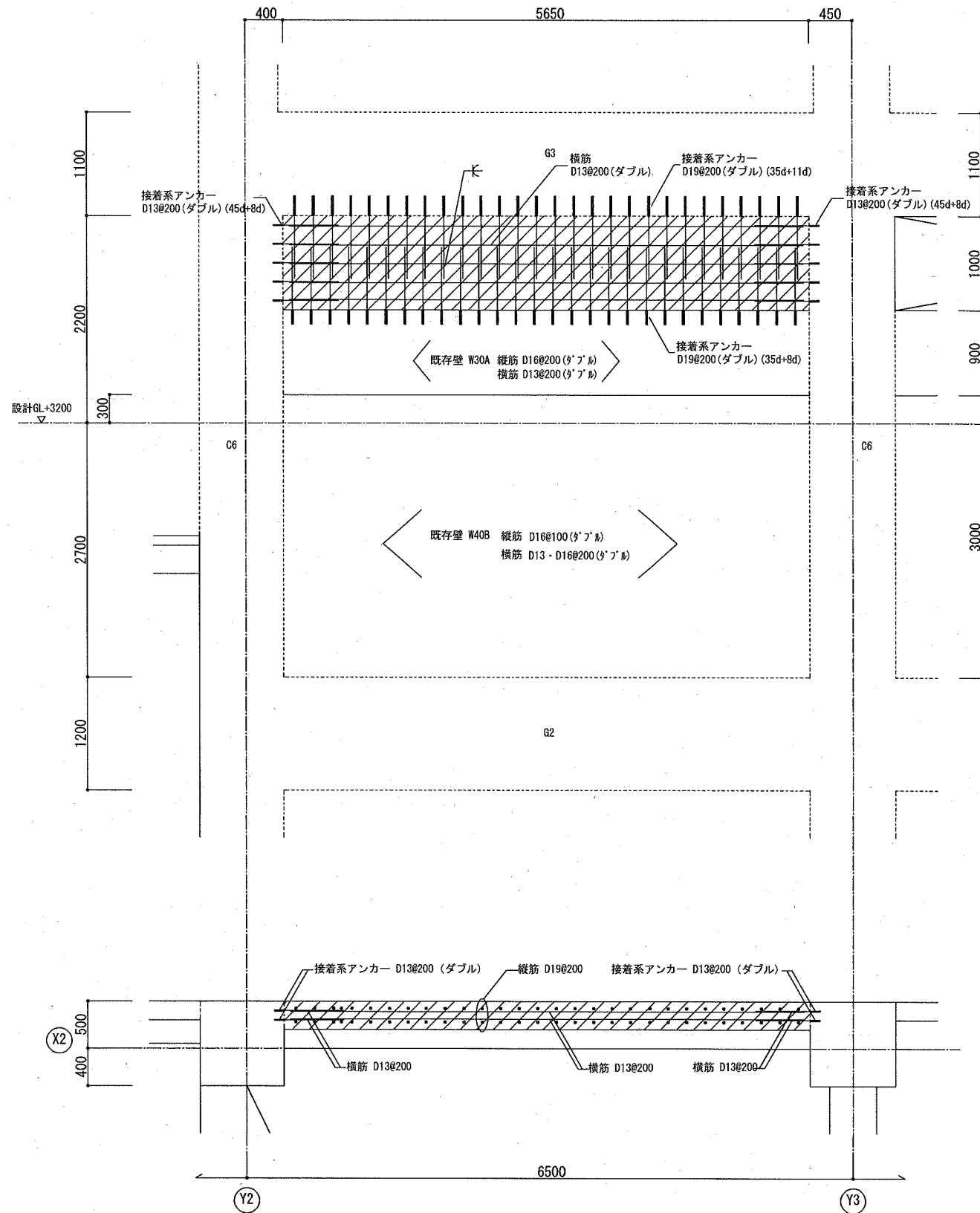


Y11通り軸組図 1:200

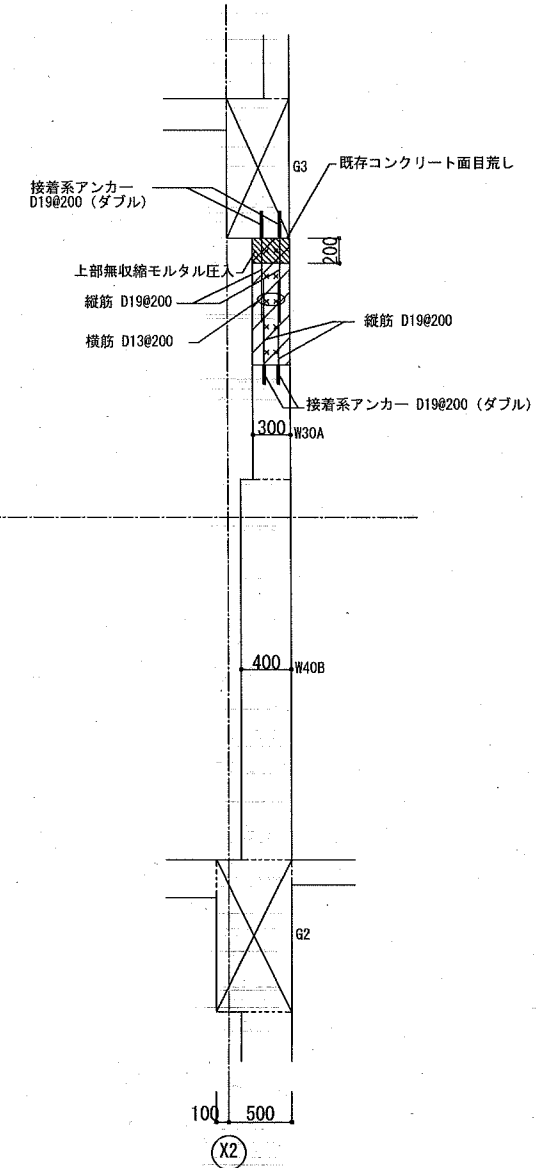
横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図 面 名 称	伏図、軸組図		
縮 尺	1:200	図 番 号	S-4
製 作 月	令和 2 年 6 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者





1-1 部 部分詳細図  
(W30A開口塞ぎ補強)



HW30A 詳細図

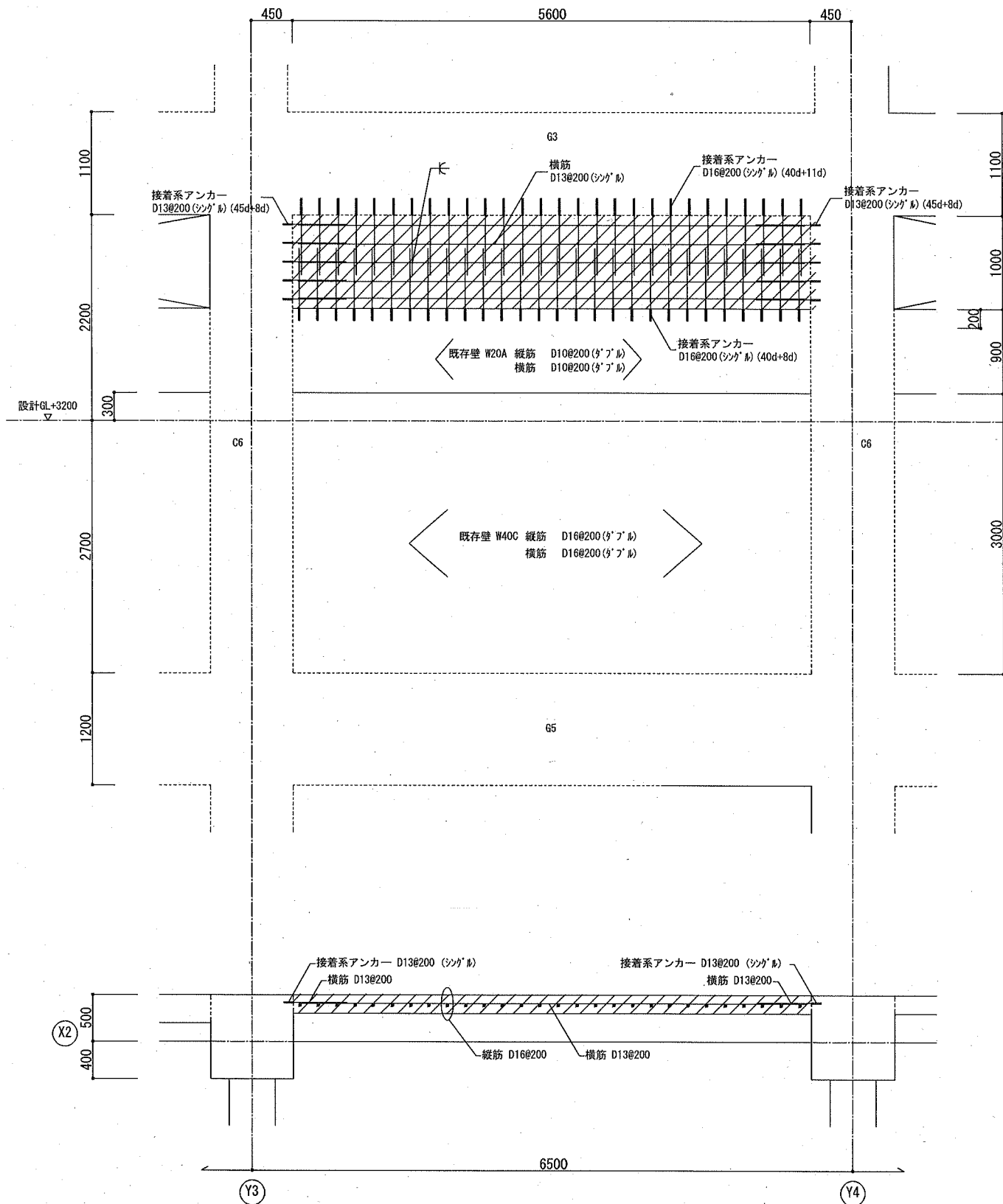


<凡例>

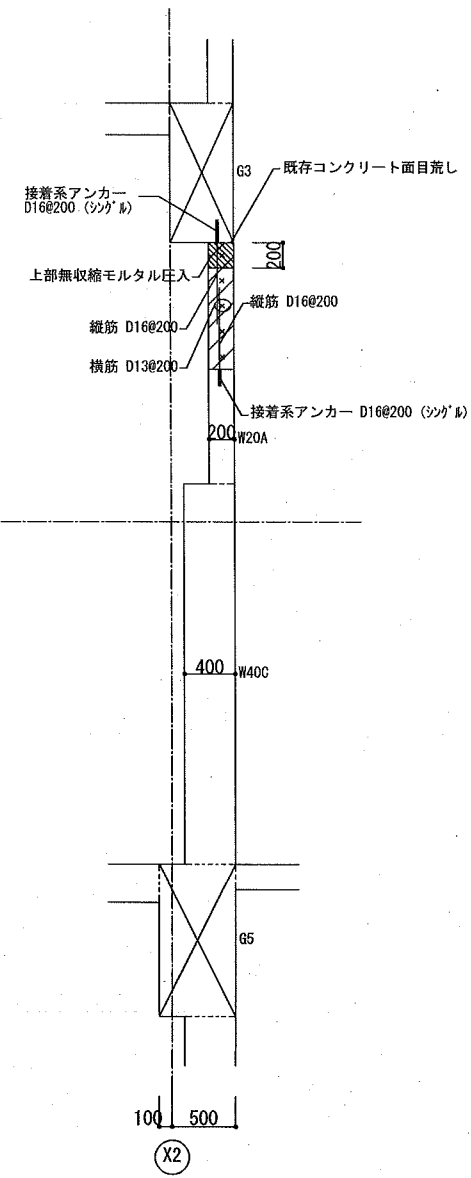
-  開口閉塞部分
-  無収縮モルタル

横須賀市上下水道局				
工名	事	舟倉第2ポンプ場		
図名	面	耐震補強建築工事		
縮尺	1:30	図面	S-5	
製年	作月	令和 2 年 6 月		
課長	係長	担当者	設計者	



1-2 部 部分詳細図  
(W20A開口塞ぎ補強)



HW20A 詳細図

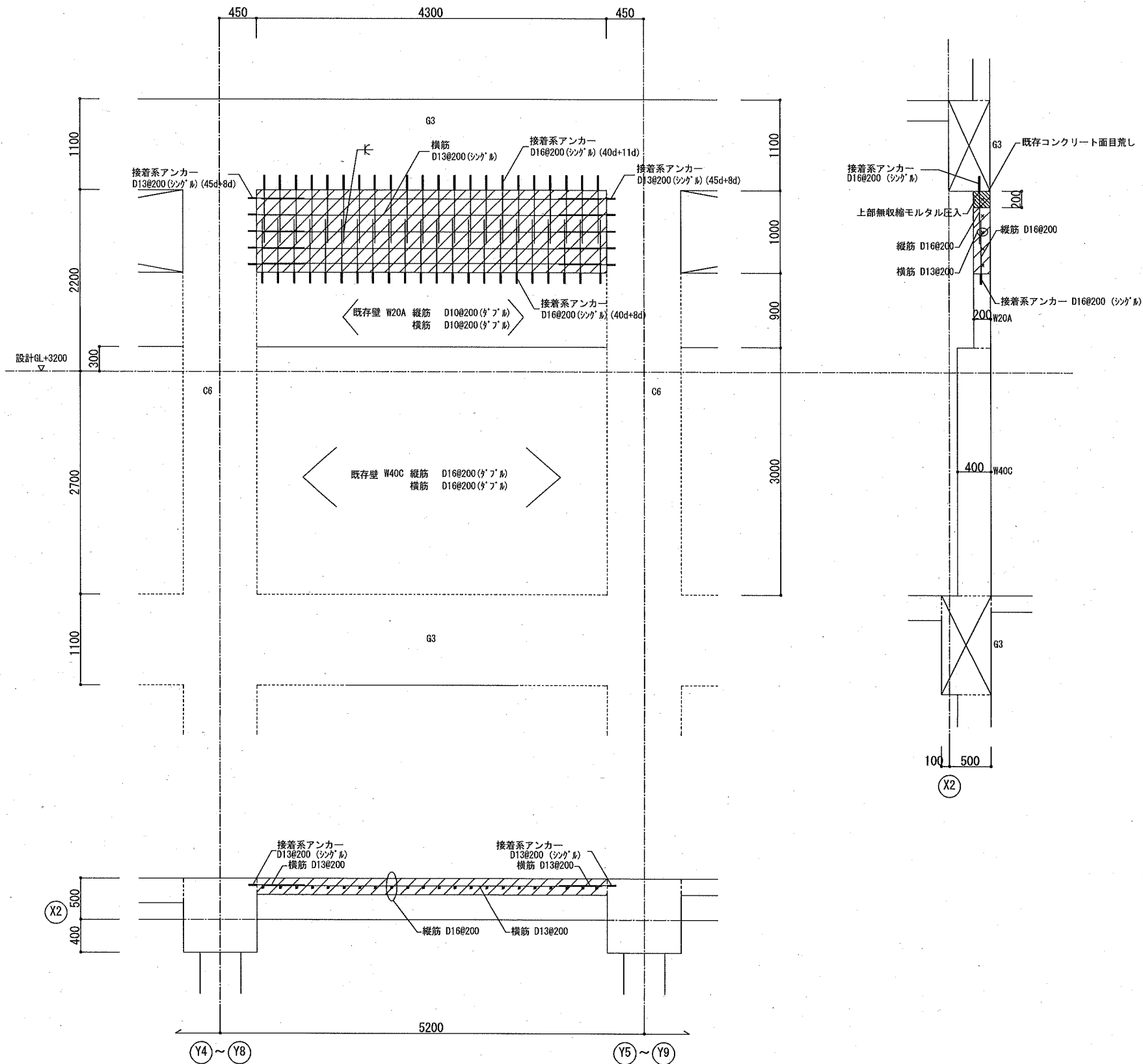


<凡例>

-  開口閉塞部分
-  無収縮モルタル

横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図 面 名 称	部分詳細図(2)		
縮 尺	1:30	図 番 号	S-6
製 作 年 月	令和 2 年 6 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

1-3 部 部分詳細図  
(W20A開口塞ぎ補強)



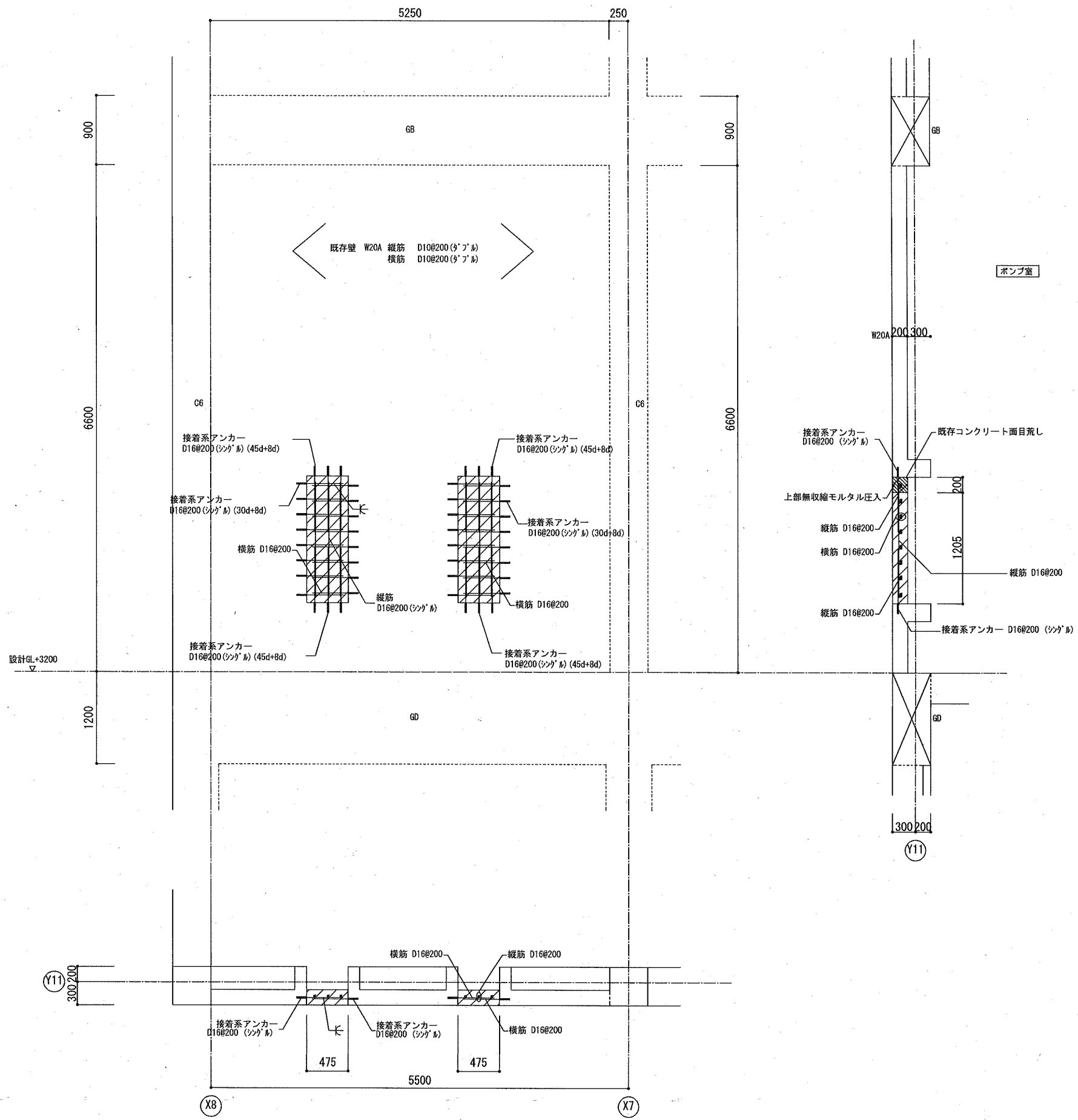
HW20B 詳細図

<凡例>

- 開口閉塞部分
- 無収縮モルタル

横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図 名	部分詳細図(3)		
縮 尺	1:30	図 番 号	S-7
製 年	令和 2 年 6 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

1-4 部 部分詳細図  
(W20A開口塞ぎ補強)



<凡例>

- 開口閉塞部分
- 無収縮モルタル

横須賀市上下水道局			
工名	事	舟倉第2ポンプ場	
図名	面	耐震補強建築工事	
縮尺	1:30	図面	S-8
製年	作	令和 2 年 6 月	
課長	係長	担当者	設計者

HW20C 詳細図